

モ事務所ナリ）ヲ開設スル方針ノ下ニ目下諸般ノ準備ヲ
進メ居ル次第ナルモ大使館ハ依然北平ニアル建前ナリ此
ノ點差當リ貴官限り御含迄
本信宛先 在滿、英、米、佛、白、獨、伊、露、各大使、

在西班牙、和蘭各公使、在壽府國際會議帝國事
務局長

二 日中諸案件交渉

1 一般問題

97 昭和10年1月19日 在南京須磨總領事より
広田外務大臣宛（電報）

日中無線電話連絡の開設につき協議開始方を
朱家驊交通部長に申入れについて

南京 1月19日後発
本省 1月19日後着

第三五號

一、十八日朱家驊ト會見ノ上本官歸朝中打合セノ「ライン」ニ
從ヒ無線電話至急開設方要求セル處朱ハ效^{（モトメ）}一箇月中ニハ
準備整フヘク其ノ上ハ約ニ從ヒ至急試験ヲ行フヘシト答
ヘタルヲ以テ本官ヨリ「トランスマッター」ニ付時間ノ繰
合セヲツケ又「アンテナ」サヘ増セハ聯絡開始ヲ躊躇ス
ヘキ理由無キ旨申聞ケタルニ朱ハ實ハ電力ノ不足カ第一
問題ナルモ至急研究方尹國墉ニ命シ置クヘシト答ヘタリ

二、其ノ際「フアクシミリ」ニモ言及セルニ朱ハ右モ電話開
設ト同時ニ實行シ度キ處獨逸ヨリ之ニ要スル機械貰ヒ受
ケノ話進行中ニ付孰レ右決定ノ上考慮シ度シト述ヘタル

ヲ以テ支那カ日本製機械ヲ購入スルコト技術的ニモ絶對
必要ナル旨指摘セルニ朱ハ日本ヨリ無償ニテ送ラレマシ
キヤト述ヘ之亦尹ニ研究セシムヘシト附言セリ

三、次ニ本官ヨリ大阪局開設ノコトハ「メンション」セス先
ツ青島ニ至急我方ト聯絡シ得ル無電臺ノ開設方要求セル
ニ朱ハ資金ノ缺乏ニ依リ早急實現ハ困難ナリト述ヘタル
ヲ以テ本官ヨリ其ノ點ハ相談シ來レハ何トカ我方然ルヘ
キ筋ニ依リ援助方斡旋スヘシト申入レ置キタリ
支ヘ轉電セリ

98 昭和10年1月27日

在南京須磨總領事より
広田外務大臣宛（電報）

無線電話連絡に要する機械・材料の購入先に

関し交通部側と意見交換について

南京 1月27日後発
本省 1月27日後着

第七七號

往電第三五號ニ關シ

二十六日館員ヲシテ尹國壩ト會見セシメタル結果左ノ通
一、館員ヨリ無線電話ヲ至急開設方督促セル處尹ハ機械モ既
ニ上海ニ到着セルヲ以テ最近試験ヲ行ヒ度シ但シ正式開
設ニハ更ニ機械ヲ購入ノ要アリト答ヘタルニ付館員ヨリ
右機械ハ日本ヨリ購入アリテハ如何ト申入レタルニ尹ハ
劃一ヲ期スル見地及往電第七九號ノ理由ヨリ英國品購入
ニ決シ居レリト述ヘタリ(尤モ二十六日本官ヨリ朱家驊
ニ對シ往電第三五號ノ趣旨ヲ再應説シタル處朱ハ納得
シ居タリ)

二、(イ)館員ヨリ無線電信聯絡擴張方申入レ擴張ニ要スル材料
其ノ他ノ援助ニ關シテハ當方ヨリ我國當業者ニ對シテ
好意的斡旋ヲ試ミ可ナル旨申入レタル處實ハ上海、天
津ヲ含ム「ステイション」七箇所ノ擴張方計畫シ前記
一、ニ舉ケタル理由ニ基キ英國「マルコニ」會社ヨリ約

料金ヨリ低率ナラハ兎ニ角高率ナル一法二五ニハ同意致
シ兼ヌル次第ナリト繰返シ居タリ

支ヘ轉電セリ

99 昭和10年1月27日 在南京須磨總領事より
広田外務大臣宛(電報)

無線電話電信に要する材料購入に關連し我が方
への債務返済金の融通方交通部要望について

南京 1月27日後発
本省 1月27日後着

第七九號

一、往電第七七號會談ノ際交通部債務整理ニ付尹國壩ヨリ館
員ニ對シ東亞及中日ノ整理ハ貴方ヨリ見テ條件良過キタ
リト愚痴ヲ述ヘ實ハ昨二十五日自分ト「マルコニ」(英
國)代表者「リチャーズ」トノ間ニ債務整理案ヲ確定セ
ル次第ナル處元本十七萬磅延滞利子三十萬磅ノ債權ニ對
シ最初十萬磅ヲ十箇年ニテ支拂フ案ヲ樹テ朱部長モ
「リ」(脱)承諾セルカ更ニ研究ノ結果支拂總額ヲ十七萬
磅、支拂期間ヲ更ニ長期トシタル上右金額ノ半分ハ「マ

十箇月中ニ材料全部ノ「デリバリー」アル豫定ナリト
答ヘタルカ

(ロ)無線聯絡ヲ圓滑ナラシムル爲「オペレーター」ヲ交換
スル件

(ロ)日本無線ニテ支那技師ノ赴日視察ヲ歡迎スル件

ニ付テハ尹ハ何レ朱家驊、顏任光トモ相談スヘク「オペ
レーター」交換ハ結構ノコトニテ實行シ度シト思ヒ居レ
リト附言セリ

三、尹ヨリ「フアクシミリ」開設ハ財政上ノ都合モアリ無線
電話聯絡後着スルノ外ナシト答ヘタルヲ以テ館員ヨリ
双方カ同一機械ヲ設備スルコト絶對必要ナレハ日本品購
入方今ヨリ準備アリタシト述ヘ「メモ」ヲ手交シ置キタ
リ

四、館員ヨリ青島行電信總料金ハ一法二五ナルヘキ旨申入レ
タル處支那側ハ一法ト思考シ居リ交通部ヨリ直接遞信省
ニ申送り置キタルモ未タ返事ナシト答ヘタルニ付館員ヨ
リ上海線海底經由ト同一料金タルカ當然ナルヘキ旨力説
セルモ尹ハ一法二五ニテハ佐青線海底料金ニ對抗シ得ス
折角ノ電信聯絡モ利用者ナキニ至ルヘキヲ以テ右佐青線

ルコニ」ヨリ交通部ニ返還シ(再投資ニ非ス)交通部ハ之
ヲ以テ同社ヨリ無線電話電信材料等ヲ購入スルノ案ヲ樹
テ結局右ニ落着キ英國側ハ債務ヲ取立タル後モ依然交通
部トノ聯絡ヲ有シ得ルコトナレリト述ヘ日本側ハ有利
ナル條件ヲ獲得セル次第第二付何トカ同様方法ヲ考慮願ヘ
レハ幸甚ナリト述ヘタルヲ以テ

三、館員ヨリ「マルコニ」ト東亞中日トヲ同列ニ論スルハ以
テノ外ニテ右ハ交通部資金調達ニ盡力セル度合東亞中日
カ當時ノ事情而モ整理ニ依ル兩者ノ支拂ヘル犠牲等ヲ全
然考慮セサルモノナリト指摘シ「マルコニ」ニ對シ整理
アリタルハ御勝手ナルモ東亞中日ヨリ更ニ之以上ノ好意
ヲ期待スルハ餘リニ虫カ好シト述ヘ此ノ機會ニ館員ヨリ
往電第七七號無線電話無線電信擴張材料等ヲ專ラ英國ヨ
リ購入シ置キ乍ラ財政的都合ハ主トシテ日本側ヨリツケ
ントスルカ如キ態度ニ付強ク不快ノ意ヲ表示シ置キタル
處尹ハ交通部ハ財政的ノ遺線ニ追ハレ居ル次第ニテ貴方
ヨリ資金ノ提供アレハ貴方會社ヨリ例ヘハ「ケーブル」
等購入スルコト致スヘキハ勿論ナリト述ヘタルニ付館
員ヨリ受取額中一部ノ再投資ナラハ兎ニ角(客年往電第

八七五號、三參照但シ夫モ現在ノ交通部支拂金額ニテハ至難ナリト述ヘタル由今トナリテハ一部返還等理由無シト答ヘ置キタル趣ナリ
支ヘ轉電シ北平ヘ暗送セリ

編 注 『日本外交文書』昭和期Ⅱ第一部第三卷第103文書。

100 昭和10年1月27日 在南京須磨總領事より
広田外務大臣宛(電報)

对中国債權整理交渉に当つては中国側態度に鑑み持久戦の覚悟が必要の旨意見具申

南京 1月27日後発
本省 1月27日後着

第八一號

廿六日張競立ハ中村(正金)ニ對シ廿六日ノ債務整理委員會(委員ハ審計部、鐵道部、交通部等ノ關係者ヨリ成ル)ニ於テ中日ノ電信借款カ論議セラレタル趣内話セル由ナル一方同日往電第七九號ノ通り尹國墉カ頻リニ館員ニ對シ愚痴ヲ並ヘ居タルニモ顧ミ(十八日朱家驊モ本官ト會見ノ際同様

趣旨ヲ述ヘタリ)支那側ハ今少シク値切ラサリシハ殘念ナリキトノ氣持ヲ有シ居ルラシク右整理委員會ヲ通シテ各部相互聯絡ノ上三井ノ對津浦線債權、正金ノ郵傳部公債等整理ニ當リ相當ゴテツカシムル肚カトモ思考セラル(往電第八〇號御參照、客年支發貴大臣宛電報第九三〇號「ハモンズ」來支モ支那側ノ右態度決定ニ鮮カラサル關係アルヘキカ)
三依テ航空聯絡問題、鐵道問題ト同様債務整理問題ニ付テモ持久戦ヲ覺悟シテ突張ル必要アルヘク右豫メ御含ミ置キヲ請フ
支ヘ轉電セリ
北平ヘ暗送セリ

101 昭和10年2月7日 在南京須磨總領事より
広田外務大臣宛(電報)

債權整理問題につき唐有壬と意見交換について

南京 2月7日後発
本省 2月7日後着

第一三〇號

往電第八一號二關シ

七日唐有壬ニ對シ津浦平漢等諸鐵道ノ收入カ著シク増加シ居ルニモ拘ラス債務整理ノ遅タタルハ面白カラス債務整理委員會ハ右ヲ如何ニ考ヘ居ル次第ナリヤト尋ネ見タルニ唐ハ極秘ナルカ昨年十月末同委員會委員全部ヲ更迭シ汪兆銘、孔祥熙、朱家驊、顧孟餘、宋子文、葉楚傖、曾仲鳴、自分(其ノ他一名ニシテ計九人)カ新委員ニ任命セラレタリ同委員會ハ(一)各部ハ其ノ財政ノ許ス範圍ニ於テ公平ニ債務ノ整理ヲ行フ(二)複利ヲ廢シ其ノ他契約締結當時ノ條件改訂ニ努カス(三)一本一利ノ原則ヲ適用ス等ノ方針ヲ定メ居レリ自分ノ思付ナルカ日本關係ノ債務整理ニ當リテハ貴官等ト話合フコト勿論ナルヘキモ日本債權者代表(内田ノ名ヲ頻リニ口ニシ居タリ)ト話合フコトモ一策カト存スト述ヘタルヲ以テ本官ヨリ右ハ一應考慮ニ値スルモ對津浦線三井債權、郵傳部公債ノミナラス我方ノ有スル一般債權ニ付テモ整理方注意ヲ喚起セル上私見トシテ債權ノ性質等モ異レハ債權者ヲ一括代表スルカ如キコト至難ナルヘク支那側ハ從來通リ各當事者ト話合ヲ進ムル一方一般的ニハ本官等ト聯絡スルコトトセハ差支ナカルヘシト應酬シ置キタリ

支ヘ轉電シ北平ヘ暗送セリ

102 昭和10年2月9日 広田外務大臣より
在南京須磨總領事宛

朝日新聞社飛行機の南京訪問計画について

亞一機密第三二號

昭和拾年貳月九日

外務大臣 廣田 弘毅

在南京總領事 須磨 彌吉郎殿

朝日機ノ南京訪問飛行ニ關スル件

客年九月朝日新聞社飛行機ノ南京訪問計畫カ九一八紀念日等ノ關係ニ依リ實現ノ運ニ至ラサリシ次第ハ御承知ノ通ナル處朝日ニ於テハ其ノ後モ右實行ノ希望ヲ有シ居リ又當方ニ於テモ客年十二月十九日打合ノ趣旨ニモ基キ朝日機ノ南京訪問方應シ來レル處今般朝日新聞社航空部係員ヨリ同部限りノ非公式決定トシテ來ル三月十二日孫文逝世十週年紀念日ヲ期シ本邦ヨリ直接南京ニ慶祝訪問飛行ヲ致シ度右計畫ハ二月十五日ノ同社重役會ニ於テ大体決定ヲ見ル筈ナルモ「中國領土内飛行取締暫行辦法」(一月二十一日附普

通第五二號貴信参照)ノ次第モアリ豫メ右ニ對スル南京政府側ノ意向内査方取計ヒアリ度旨依頼越セリ
尙其ノ際朝日側ノ談ニ據レハ三月中旬ヲ選定シタルハ實ハ四月上旬ニハ滿洲國皇帝來京セラル、爲所要飛行機手放シ難キノミナラス其ノ後ハ右ニ關聯シ支那側ノ感情ヲ害スルカ如キ風説モ立チ得ヘク又五月ニハ種々ノ紀念日重ナリ居ルニ付多少唐突乍ラ孫文逝世十週年紀念日ニ之ヲ行ハントノ趣旨ニ基ク趣ナリ
本計畫ノ實現ハ豫テ打合ノ次第モアリ又最近日支關係多少共好轉ノ此ノ際誠ニ有意義ノコト、存セラル、付テハ前記二月十五日重役會議ニ於テ何分ノ儀決定ノ上ハ具體的計畫ト共ニ右ノ趣直ニ電報スヘキニ付右電報接到ヲ俟チ外交部ノ許可取付方可然御取計相成度此段申進ス
本信寫送付先 在支公使

103 昭和10年2月27日 広田外務大臣より
在南京須磨總領事宛(電報)

朝日新聞社飛行機の南京訪問に対する現地陸軍軍人の反対について

では日本のみの反対固持は困難であり我が方対案を提示して交渉開始方意見具申

上海 3月14日後発
本省 3月14日後着

第三三五號
貴電第五九號ニ關シ(水先問題ニ關スル件)

一八六八年規則カ以前ノ通り行ハレサヘスレハ現狀維持モ誠ニ結構ナルモ支那政府トシテハ既ニ新規則ヲ出シタル手前六八年規則ヘノ復歸ヲ素直ニ應諾スルモノトハ考ヘラレヌ我方ニテ不即不離ノ態度ヲ執ル以上支那側ハ(一)新舊何レノ規則ニモ付カサル現在ノ變態的狀態ニテ推移スルカ(二)或ハ英、米二國トノ妥協ニ基キ部分的解決ヲ爲シ我方ニ對シテハ已ムヲ得ス其ノ爲ス所ニ委スニ至ルヘク(一)ノ場合ニハ支那側ハ再ヒ六八年規則ニ依リ水先人ノ補充ヲ溢リ水先協會ノ存續ヲ困難ナラシムル一方水先協會ニ對シテハ既ニ提示シタル好條件案ヲ種ニ其ノ切崩シヲ試ムルヤ明カナリ海關カ水先協會ニ提示シタル條件案ハ月給二千三百弗他ニ現存利益ノ確保、長期休暇等至レリ盡セリノモノナル爲協會ハ既ニ早ク之ヲ受諾ノ旨滿場一致決議セルハ上海總領事發

第二七號(大至急)
往電第二三號ニ關シ
守島ヨリ

朝日飛行ノ件ハ豫メ軍側共打合ノ上決定セル次第ナル處其ノ後陸軍側出先ヨリ右ハ最近ノ日支關係ニ鑑ミ日本カ對支親善ニ焦リ居ルヤノ印象ヲ與ヘ面白カラストノ意見ヲ電報越セルモノモアリ部内ニ反對論出テ來レル趣ヲ以テ右ニ對スル當方ノ意向重ネテ問合セ來レルヲ以テ朝日飛行ニ件フ諸般ノ關係ニ關シテハ豫テ軍側共打合ノ方針ニ基キ慎重考慮濟ニテ朝日ニ對シテモ萬事我方出先ト相談ノ上行動スヘキ旨注意シアルノミナラス既ニ外交部ニ對シ手配濟ナレハ今更中止ナリ難シト應酬シ置ケリ就テハ以上貴官限リ極秘御合ノ上貴地陸軍武官トノ聯絡方此ノ上共御配慮アリ度支ヘ轉電セリ

104 昭和10年3月14日 在中国有吉公使より
広田外務大臣宛(電報)

水先章程改訂問題に関し英米が妥協した現状

一月四日附公信普通第四號ノ通りニシテ

今ヤ外國人水先人等ハ日本獨リ反對ナル爲此ノ條件ヲ前ニシ乍ラ見ス見ス自分等ノ利益ヲ犧牲ニセネハナラヌノハ不合理ナリトテ我方ヲ恨ミ居ル程ナルヲ以テ此ノ儘ニテハ早晚協會ハ自ラ崩壞ヲ免レサルヘシ其ノ場合及(二)ノ場合ニ於テハ我方ニ於テ獨立水先ニ迄突キ進ムハ已ムヲ得サル處ナルモ何分海關ノ提示條件案カ良過キル爲我方水先人等ハ政府ノ御方針ナラ已ムヲ得スト稱シ乍ラ獨立水先ニハ頗ル氣乗薄ニテ種々苦情ヤラ獨立水先ノ缺點等ヲ擧ケ居ル狀態ナルヲ以テ之ヲ督勵シテ獨立水先ニ當ラシムル場合ニハ待遇及施設ヲ逐次改善シテ遣ル必要アリ相當「エキスペンシブ」ノモノトナルヘキニ付之ハ已ムヲ得サル場合ノ切札トナシ置キ之ヲ使用スル前ニ解決ヲ付ケルコト得策ナリト信ス然ルニ一方支那側ヲシテ進ンテ我方ノ希望條件ヲ加味シタル案ヲ提示セシムルコトハ海關對英米トノ話合カ大體纏リタル現狀ニ於テ見込ナシト思考ス故ニ此ノ際我方ヨリ進ンテ新條件ヲ提示シ開談スルニアラサレハ話ハ進展セサルヘク結局前記(一)又ハ(二)ノ狀態ニ陥ルコトトナルヘシ尙杉原帶行ノ案ト雖支那側トシテハ容易ニ受諾シ得サルヘク話ハ相

本省 2月27日後6時50分発

當永引クニ至ルヘキモ少クトモ話ノ繼續中ハ支那側トシテ
モ我方ヲ無視スル態度ニ出テサルヘク水先人補充モ不完全
乍ラ行ハレ協會モ我方ト支那側トノ交渉ヲ頼ミニ自己崩壞
ヲ慎シムコトト思考セラル就テハ折角貴電御訓令ノ次第ハ
アルモ此ノ際新條件ヲ提示シテ開談方御再考ヲ仰ク
何分ノ儀至急御回示ヲ請フ
北平、南京へ轉電シ上海へ轉報セリ

105 昭和10年3月22日 広田外務大臣より
在中国有吉公使宛(電報)

水先章程改訂問題に關し我が方對案提示によ
る交渉開始方訓令

付記 昭和九年十二月十五日付

「水先問題ニ關スル妥協案(外務省係官試案)」

本省 3月22日発

第八三號

貴電第二三五號ニ關シ

一、海關側ノ立場モアリ先方ヨリ我方第一次案ノ趣旨ニテ
「アプローチ」シ來ルコト困難ナル結果此ノ儘ニテハ本

セリ

上海へ轉報アリタシ

編注 杉原荒太領事携行案は本文書付記と思われる。杉原領

事は昭和九年十二月十七日、神戸発帰任した。

(付記)

九、十二、十五

水先問題ニ關スル妥協案(外務省係官試案)

二、方針

現状維持ヲ理想トスルモ右ニシテ不可能ナルニ於テハ左
記諸點ノ確保ヲ目的トシ必要ニ應シ相當ノ保障ノ下ニ我
方第一次對案ヲ修正ノ上妥協ヲ圖ルコト差支ナシ

- (イ)有事ノ際日本軍艦及船舶ノ航行ニ障礙ヲ來ササルコト
- (ロ)常時日本軍艦及船舶ノ航行ノ安全及便利ヲ維持スルコト

ト
(ハ)右(イ)(ロ)ノ爲必要ナル最小限度ノ日本人水先人ヲ不斷ニ
維持シ置クコト(但シ現在日本人水先人ノ配置シアラ
サル地方ニ於テハ現状通りニテモ致方ナシ)

件交渉ハ當分何等進展ノ見込無キニモ鑑ミコノ際杉原携
行案^(編註)即チ水先業務ノ監督並ニ經營ノ海關ヘノ接收ヲ認ム
ルモ最小限度日本人水先人維持ニ必要ナル保障條件ヲ確
保スルノ「ライン」ニ依リ我方ヨリ對案ヲ提示シ在上海
總領事ヲシテ左記ニノ諸點御注意ノ上海關當局ト交渉ヲ
開始セシメラレ差支ヘナシ(關係省ト協議濟)

尙本月末ヲ以テ終ルヘキ水先人免狀有効期限ハ右交渉中
ハ更ニ延長セシムル様御交渉相成タシ

- 二、(イ)妥協ノ順序ニ關シテハ前記案ニ、ニモ言及セル如ク海關
ニ依ル接收ハ楊子江水先ヲ除外スル旨明瞭ニスルト共ニ
差當リ上海港ニ限ルコトト致度(右楊子江水先ヲ除外ス
ルハ支那側ヨリ云ヘハ理論上ノ根據無キモノトシテ反對
スヘキモ右區域水先ハ我方トシテハ最モ重視スル所ナル
ト共ニ同地方ニテハ日本人ハ現ニ獨立水先ニ從事シ居リ
我方立場ハ比較的強キ次第ナレハ是非主張セラレタシ)
- (ロ)支那側ニ對シ保障條項ヲ提示セラルルニ當リテハ前記
案ニノ各項ノ字句並配合ヲ適宜修正セラレ度尙同案ニ、(ハ)
(ホ)ノ「乃至ハ領事ノ直接參與」ハ削除セラレ度

北平、南京、天津、青島、漢口、廣東、福州、厦門へ轉電

三、妥當ノ限度及順序並保障取付ノ方法

- (一)從來ノ水先業務經營並水先人ノ監督ノ方法ハ左記ニ列
記ノ保障ノ下ニ海關系統ノ統制ニ委スコトニ讓歩シ得
ヘシ

(二)揚子江日本人水先協會ノ如ク從來何等ノ統制ニ服シ來
ラサリシモノハ其ノ儘トシ先ツ「ライセンスト、パイ
ロット」ヨリ右海關系統ノ統制ニ服セシムルノ順序ニ
依ル(之カ爲成ルヘク從來同様本件支那側章程ノ適用
範圍ヲ各港水先ニ限定シ河川水先ニ及ハサシムルニ
努ムヘキナリ)

(三)保障取付ハ章程自体ニ織込ム形式ヲ可トスルモ止ムヲ
得サルニ於テハ日支間書面了解事項トシ差支ナシ

三、保障條件

(一)一般の保障

- (イ)現存ノ日本人水先人カ引續キ業務ニ從事シ得ルコト
- (ロ)將來必要ナル最小限度ノ日本人ハ不斷ニ維持セラル
ヘキコト
- (ハ)日本人水先人カ最小限度ノ定數ニ缺クル場合ノ補充
ハ必ス日本人ニ依ルヘキコト

(二) 最小限度ノ定數以上ノ日本人水先人ト雖モ外國人ト同等ノ地步ニ於テ任用セラレ得ヘキコト(此ノ場合補充ノ割當ハ大体從來上海ニ於テ行ヒ來レル如ク水先料金ノ比率ニ依ルコトトセハ可ナルヘシ)

(ホ) 外國人水先人ノ資格試験、見習期間ノ養成及任用ニ關シテハ從來ノ「ボード」ノ存置ハ必スシモ必要トセサルモ專ラ支那側法令ノ規定ニ委ヌルコト並其ノ運用ニノミ委スコトハ面白カラサルヲ以テ少クトモ右運用ノ公正ヲ期スル爲何等カノ形ニ於テ所屬國領事力干涉シ得ヘキコトヲ確メ置クコト

(ヘ) 日本軍艦及船舶ハ何時ナリトモ日本人水先人ヲ指定シ得ヘキコト

日本軍艦及船舶ノ水先業務ニ服シタル日本人水先人ハ單ニ日本側ノ業務ニ服シタルコトノミヲ理由トシテ業務上身分上又ハ待遇上ニ於テ壓迫ヲ加ヘラレサルヘキコト

(ト) 日本軍艦及船舶ハ何時ニテモ特定ノ水先人ヲ忌避スルノ自由アルコト

(チ) 水先人ノ監督ニ付テハ大体海關稅務司系統ニ委セ得

シテハ罷免セラレサルヘキコト」等ヲ設クルコト)

106

昭和10年3月22日 在南京須磨總領事より
広田外務大臣宛(電報)

朝日新聞社飛行機の到着歓迎会において日本を誹謗する暴漢の乱入事件発生について

第三一七號

南京 3月22日前發
本省 3月22日後着

朝日機歓迎ノ爲二十一日晝當地有力新聞社及通信社ハ本官及館員、陸海軍武官、朝日新聞關係者等ヲ勵志社ニ招待(外交部、憲兵隊、市政府等ヨリモ代表者陪賓トシテ參加)主人側ヨリ社長其ノ他二三十名ノ記者出席接待ニ當リタルカ主客ノ挨拶交換ヲ終レル際華僑通訊社ノ齊公衡ナル者(日本大學出身ト云フ)突如日本語ニテ支那ハ他國侵略人民殺傷ノ爲飛行機ヲ使用セス東四省ノ返還ヲ切望ス、朝日機歸日ノ上ハ日本ノ軍閥ニ記念品ヲ贈呈アリ度其ノ記念品ハ之ナリト演說セル上用意シ來レル白布ニ血書スル爲小刀ニテ指ヲ切ラントセルモ主人側ニ依リ會場外ニ追出サレタル

ヘキモ停職罷免等ノ重大事項ニ付テハ所屬國領事ノ同意ヲ必要トスルコト

(リ) 水先料金ノ決定、強制水先區域等ニ關スル地方規則ハ少クトモ何等カノ形式ニ於テ外國領事ノ承認ヲ取付タル上實施スヘキコト

(ニ) 水先業務經營ヲ完全ニ海關系統ニ統制スル場合(換言スレハ水先人ヲ海關ノ雇傭人ノ地位ニ置ク場合)

前記(一)ノ各項ノ外左記各項ノ保障ヲ必要トス(實際問題トシテハ特ニ待遇上ノ保障ニ付テハ英國側カ相當強硬ナル條件ヲ持出スヘキヲ以テ之ニ均霑シ英國側ト同一ノ待遇ヲ取付ケ得レハ可ナリ但シ同一内容ノ保障ナリトモ形式上ハ日支間了解事項トナシ置クコト必要ナリ

(イ) 待遇(給料、諸手當、昇進等)ニ關スル充分ナル保證取付ノ爲内規類ヲ制定セシメ領事ノ協議權ヲ認メシムルコト

(ロ) 身分上ノ保證ニ付テモ前記(イ)ト同様内規類ヲ制定シ領事ノ協議權ヲ認メシムルコト

(右保障ノ字句ニ付テハ例ヘハ「正當ナル理由ナク

事件發生セリ事件後直ニ司會者ヨリ「彼ハ神經系統ニ缺陷アリ」トノ簡單ナル説明アリタルモ後刻本官及館員ヨリ唐有壬、高宗武、黃朝琴等ニ對シ主人側ヨリ正式ニ挨拶方然ルヘキ旨申入レタル處支那側ハ齊ハ小通信社ノ代表ニシテ主催者ノ一員タラサリシ者ナレハ前記司會者ノ辯明ニテ勸辯アリ度シト答ヘタルモ本官ヨリ右ハ納得行カサル旨述ヘ置キタリ陸軍武官ト話濟ニテ何レ善處ノ答ナルモ新聞報道等モアルヘキニ付不取敢

支ヘ轉電セリ

支ヨリ上海ヘ轉報アリタシ

107

昭和10年3月23日 在南京須磨總領事より
広田外務大臣宛(電報)

朝日新聞社飛行機の歓迎会における暴漢乱入事件につき主催者が正式に弁明するよう汪兆銘に要請について

第三一七號

南京 3月23日後發
本省 3月24日前着

往電第三一七號ニ關シ

其ノ後主催者側ヨリ何等音沙汰ナク問題化スル虞モアリ早目ニ措置スルコト然ルヘシト存シ二十三日汪兆銘ト會見至急正式ニ挨拶方勸告セル處汪ハ(イ)齊ハ當時主催者ノ一員ニアラス又招待モサレ居ラス(ロ)席上主催者側ヨリ既ニ挨拶アリタリ(ハ)又王寵惠日本滞在ノ際個信夫カ同様ノ行動ニ出テタルコトアル由ナルモ王寵惠及自分ニ於テ不問ニ附セリトノ三點ヲ舉ケ水ニ流サレ度シト述ヘタルヲ以テ本官ヨリ(イ)無賴漢ヲ同席セシメタリトセハ主催者側ノ失態ハ更ニ甚タシ(ロ)席上ノ挨拶ハ其ノ体裁ヲナシ居ラスト述ヘ率直ニ措置シテ折角ノ日支關係好轉機運ニ間隙ヲ生セシメサルヘキ様繰返シ嚴重力説セル爲汪モ漸ク何トカ貴意ニ副フ様考慮致スヘシト答ヘタリ(陸海軍武官及本朝來寧ノ影佐武官ニモ話濟)

支ニ轉電セリ

支ヨリ上海ニ轉電アリ度シ

108 昭和10年3月25日 在南京須磨總領事より
広田外務大臣宛(電報)

朝日新聞社飛行機の歡迎会における暴漢乱入
事件に対し中国側より遺憾表明について

南京 3月25日後発
本省 3月25日後着

第三三〇號

往電第三二七號ニ關シ

二十五日朝高宗武ヨリ本官ニ對シ電話ヲ以テ種々御手数數ヲ掛ケ申譯ナシト挨拶シ來レルカ後刻石信嘉(新京日報社長、當日司會者)本官ヲ來訪シ(陸、海軍武官同席)鄭重ナル言辭ヲ以テ眞ニ遺憾ナリシ旨述ヘタルニ付本官ヨリ今後共充分注意方申聞ケ置キタリ本件ハ之ニテ打切ルコト致スヘシ(陸海軍武官ト協議濟)

支ニ轉電セリ

支ヨリ上海ニ轉電アリタシ

109 昭和10年3月25日 在上海石射總領事より
広田外務大臣宛(電報)

朝日新聞社飛行機の上海到着歡迎宴が極めて
友好的雰囲気で盛会の旨報告

上海 3月25日後発
本省 3月25日後着

第一〇三號

閣下發南京宛電報第四四號ニ關シ

朝日機ハ二十二日午後二時當地着二十五日午前九時當地出發歸還セルカ(二十四日出發ノ豫定ナリシ處天候不良ノ爲出發延期)二十二日該機龍華着陸ノ際ハ支那側ニ於テ場内ニ盛大ナル歡迎宴ヲ設ケ吳市長以下民間有力者多數出迎ヲ爲シ市長ノ親日演説アリ同日本官ノ歡迎「レセプション」ニハ吳市長以下支那側官民有力者百餘名ノ出席アリ市商會會長俞佐庭、航空協會王曉籟(著名ノ排日家ト目サレ居リ從來日本側宴會ニハ全然顔ヲ見セサリシモノ)、姚錫九、林康侯、地方協會虞洽卿、張嘯林、郭順、杜月笙、中國航空公司戴恩基、歐亞航空李景樞、銀行家徐新六、唐壽民、申報社長馬蔭良、新聞報社長汪伯奇、時事新報社長張竹平其ノ他各社ノ代表等ノ出席アリ何レモ打寛キ歡ヲ盡シテ散會セルカ同夜ハ支那側新聞公會ノ盛大ナル歡迎宴アリ翌二十三日ニハ朝日新聞ノ御禮宴、吳市長ノ「アット、ホーム」等ニテ日支官民ノ交驪行ハレタル外同夜有吉公使ノ晩

餐會ニハ市政府關係者並ニ前記王曉籟、姚錫九、杜月笙、李景樞、戴恩基等民間側招待者全部出席シタリ
尙本件ニ關スル新聞ノ掲載振等大体頗ル良好ニシテ特ニ二十三日ノ時事ハ滿洲事變後兩國國民ノ感情ヲ惡化セシメタルハ日支双方ノ言論機關力重大ナル責任者ナリ但シ既往ハ咎メス朝日機ハ歸國後日本國民カ「仇華」及「侮華」觀念ヲ棄テ日支間ノ難局ヲ打開スル様指導セラレンコトヲ望ム云々ト論セリ
支ニ轉報シ北平、南京、天津、青島、漢口、福州、廈門、廣東ニ轉電セリ

110 昭和10年4月4日 広田外務大臣より
在中国有吉公使宛(電報)

一億元公債による交通銀行への増資に対し我が方債権への利払い督促方および我が方債権の保全を中国側に注意喚起方訓令

本省 4月4日後6時40分発

第九八號

一億元公債ニ依ル交通銀行ノ増資ハ(イ)銀行ノ資産ヲ増大

スルト共ニ(ロ)政府ノ銀行ニ對スル發言權ヲ増加スル譯ニ付(イ)銀行ニ對シ利拂方又(ロ)財政部ニ對シ利拂ニ異議ナキ旨言明方ヲ更メテ要求スル切掛トナルヘク右ハ利拂方交渉促進ノ爲得策ナリト思考セラル
(尙一月三十日附堀内宛守島半公信ノ件預金部側ニ内々説得ヲ進メ居レリ委細郵報)

三、一億元公債カ關稅ヲ擔保トスル點ニ付キテハ湖廣借款團側ハ例ニ依リ(一九三三年十一月二日附香上銀行發正金上海支店宛書翰等參照)一應ノ申入ヲナスモノト思ハルル處我方トシテモ青島公有財産證券、九六公債其ノ他(吉黑林鑛第三次利拂借款等モアリ昭和八年天津發貴公使宛第三三〇號參照)ノ擔保權ニ基キ我方ノ權利ヲ侵害セサル旨言明方要求スルコト當然ナルヘク又整理促進ノ見地ヨリモ有效ナルヤニ認メラル

三、以上ハ既ニ御氣付ノコトトハ存スルモ一億元公債問題ハ其ノ成行如何ニ依リ將來何等カ工作ノ必要モアルヘキニ付旁々此ノ際前記一及二然ルヘク御措置相成度シ南京、北平ヘ轉電セリ

~~~~~

ヲ許容セラレタシト述ヘタルヲ以テ本官ヨリ日本品購入ノ具体案ヲ提示アラハ本官ニ於テモ研究ノ上場合ニ依リテハ斡旋ヲ咨マサルヘシト答ヘ置キタリ  
支ヘ轉電セリ

~~~~~

112 昭和10年5月5日 在中国堀内公使館一等書記官より
広田外務大臣宛(電報)

中国紡績業救済のため日本側と提携し資金補給を図る案が中央政治会議で可決された旨唐
有壬内報について

上海 5月5日前発
本省 5月5日前着

第三九二號(極秘)

南京發閣下宛電報第三七六號末段ニ關シ
四日唐有壬ハ本官ニ對シ先日公使ヨリ汪院長ニ御話ノ件ニ付其ノ後貴官ノ詳細ナル説明モアリ汪院長ト充分話合ヒタルカ去ル一日中央政治會議ニ於テ政府懸案ノ支那紡績救済策ヲ審議シ自分ヨリ紡績救済ハ巨額ノ資金ヲ補給スルモ目的ヲ達シ難ク又此ノ際資金補給ノ途モ無ク結局日本紡績ト

111 昭和10年4月22日 在南京須磨總領事より
広田外務大臣宛(電報)

交通部の資金援助要請に対し先ず無線電話電信に要する材料購入等に関して日本側商社と密接連絡方懇懇について

南京 4月22日後発
本省 4月22日後着

第四〇一號

九日館員交通部尹國墉ト會見ノ際尹ヨリ同部資金難切抜ケノ爲日本側ヨリ援助アリタキ旨非公式ニ申出テタルカ(委細公信ニテ報告濟)二十二日朱家驊ヨリモ他用ヲ以テ會見セル本官ニ對シ同様申出テタルニ付本官ヨリ先ツ材料購入等ニ關シ日本側商社ト密接ナル聯絡ヲ遂クルノ要アル旨力説セル處朱ハ電信材料ハ種々ノ關係モアル爲「マルコニ」ヨリ購入スル様拘束セラレ居ルモ電話ノ擴張及改良ニ要スル材料ニ付テハ日本品進出ノ餘地充分ニアリト存セラ
ルル處(例ヘハ漢口電信局ニハ「シーメンズ」カ勢力ヲ振ヒ居ルモ日本品カ優良ナラハ漸次之ヲ驅逐シ得ヘシ)購入ニ際シテハ交通部資金難ノ關係上出來得ル限り長期ノ信用

合作シ其ノ援助ヲ受クルヨリ外方法無シトテ兩國紡績合作方ヲ提議シ相當反對論モアリタルカ結局合作方ヲ決議シ自分、陳公博及陳光甫ノ三人ヲ委員トシテ合作方法ヲ考究スルコトニ決シタリ近ク船津理事ノ歸滬ヲ俟チ協議スル積ナリト内話シ居タリ(本件發表差控ヘ(ラレ)度シ)
北平、天津、南京、青島ヘ轉電シ上海ヘ轉報セリ

~~~~~

113 昭和10年5月6日 在上海石射總領事より  
広田外務大臣宛(電報)

水先章程改訂問題に關し我が方対案を総稅務司処秘書に内示し予備的交渉開始について

別電 五月六日發在上海石射總領事より広田外務大臣宛第一四一號  
右日本側提示案

付記 右仮訳文

上海 5月6日後発  
本省 5月6日後着

第一四〇號

閣下發在支公使宛電報第八三號ニ關シ



右貴電御來訓ノ趣旨ニ依リ別電第一四一號ノ案ヲ作成シ右案ニ依リ本六日杉原ヲシテ總稅務司處秘書「ライト」ト話合ヲ爲サシメタルカ先ツ杉原ヨリ右案ヲ「ラ」ニ交付シ本件支那側章程ニ對シテハ日本側ハ初メヨリ反對ニシテ殊ニ右章程カ急激ナル變革ヲ齎スモノナルニ依リ今尙我政府部内ニハ相當強キ反對論モアルハ事實ナルカ海關側ノ立場等ヲモ考慮シ難キヲ忍ビテ大ナル讓歩ヲ爲ス次第ナルニ付該案ハ其ノ儘受諾セラルヘキヲ期待スル次第ナリト述ヘ各項ニ付説明ヲ與ヘタル處「ラ」ハ本案ニ付自分限りノ一應ノ意見ヲ述フヘシトテ(一)ニ付テハ全國ノ水先權ノ回收テフ今回ノ支那側案ノ根本目的ヨリシテ國民政府トシテハ之ヲ受諾スルコト困難ナルヘク(二)ニ付テハ支那トシテハ各地水先トモ同時ニ海關ニ接收シタキ考ナレハ之亦受諾困難ナルヘク(三)ニ付テハ異議無カルヘク

(四)ニ付テハ領事ノ協議權ヲ認ムルコトハ支那側ノ主眼トスル外國側ノ「コントロウル」排除ノ目的ト抵觸スルニ依リ受諾困難ナルヘク(五)ニ付テハ領事トノ協議ノ點ヲ除キ異議無カルヘク(六)及(七)ニ付テハ異議無カルヘシ(八)ニ付テハ(四)ノ場合ト同様ノ理由ニ依リ受諾困難ナルヘク(九)及(三)ニ付テ

ハ大体異議無カルヘク(一)政府及(三)ニ付テハ(四)ト同様ノ理由ニ依リ受諾困難ナルヘク(三)ニ付テハ長江上流等事實強制トスル必要アル處迄全部一律ニ強制ヲ許ササルハ無理ナルヘク若シ without due notification from the Chinese Government ト言フカ如キ條件附取扱ハ或ハ可ナルヘシ(二)ニ對シ杉原ヨリ我方トシテハ notification ノミニテハ絕對ニ不可ニシテ少クトモ without the consent of the Consuls concerned トスルコト絕對必要ナリト述フ(一)(三)及(七)ハ(四)ト同様ノ理由ニ依リ受諾困難ナルヘク(二)及(六)ハ異議無カルヘク

要スルニ楊子江水先除外ノ點及領事ノ協議權ノ二點ハ支那側ニ於テ最難色アルヘシト思考セラルルモ(右ニ對シ杉原ヨリ右二點ハ我方トシテ一定數ノ日本人水先人維持ノ點ト共ニ最重要視スル所ナル旨ヲ述ヘタル處「ラ」ハ然ラハ其ノ旨ハ特ニ「メンション」シテ南京ヘ申送ルコトニスヘシト云ヘリ)兎モ角南京ヘ請訓シテ何分ノ儀成ルヘク速ニ確答スヘシト云ヘリ

右「ラ」トノ會談ハ豫備的非公式ノモノナル了解ノ下ニ行ヒタルモノナレハ前記案ニ付テモ我方ヨリ更ニ修正又ハ迫

加ヲ申出スルコト勿論自由ナルニ付御意見アラハ御回示ヲ請フ(右會談ニ於テハ前記我方提案内容ヲ保證スル形式ノ問題ハ後廻シトシテ態ト立入ラサリシモ結局交換公文ノ形式ヲ採ルノ外無カルヘシト思考ス)

尙前記「ラ」ノ指摘セル二點ハ今後交渉ノ「ポイント」トナルヘシト思料セラルルニ付南京ニ於テモ國民政府側ヲ然ルヘク誘導方御取計ヲ希望ス

別電ト共ニ公使ニ轉報シ北平、南京、天津、青島、漢口、福州、廈門、廣東ヘ轉電セリ

## (別電)

上海 5月6日後発  
本省 5月6日後着

## 第一四一號

(1) The Provisional Pilotage Obligations shall not be applicable to the "Japanese Yangtze Pilots" Association and the pilots thereof who shall not be under any control of China Pilotage Authorities as in the past.

(2) The taking over of the control and management of

pilotage by the Customs shall be, for the time being, limited to only the pilotage in the port of Shanghai.

(3) The existing Japanese pilots shall be free to continue to function their piloting service.

(4) The number of pilots for the several ports shall be fixed by the Pilotage Authorities in consultation with the Consuls concerned.

(5) A necessary minimum number of Japanese pilots shall always be maintained and such number shall be decided by the agreement between the local Japanese Consul and the China Port Pilotage Authority, it being understood that the number of Japanese pilots in the port of Shanghai shall be not less than five so long as the present Japanese shipping conditions in Shanghai remain without a remarkable change.

(6) In case the Japanese pilots fall short of the minimum full number, vacancies thus created shall be filled by Japanese subjects.

(7) Even if the fixed minimum full number of Japanese pilots is exceeded, Japanese candidates shall be entitled to

apply for vacancies on the same footing as westerners. In this case, the nationality of a new appointed shall be decided on the basis of pilotage fees paid by vessels of various nationalities in the same way as hitherto practised in Shanghai.

(8) With regard to the qualifying examination and appointment of foreign pilots or apprentice pilots, it is necessary for the authorities concerned to consult previously with the Consuls of countries to which the candidates belong.

(9) Japanese warcraft and public vessels shall be free to engage Japanese pilots for their piloting at any time. Those Japanese pilots who have served Japanese warcraft and vessels shall not be placed in any disadvantageous position whatever in every respect on account of their having piloted Japanese warcraft and vessels.

<sup>(9)</sup> (10) Japanese warcraft and vessels shall be free at any time to refuse to engage a certain pilot.

(11) As regards important matters such as suspension from office or dismissal of a pilot, an approval shall first be

obtained from the consul of a country to which the pilot concerned belongs.

(12) Local rules for the ordering of pilotage matters at the ports and the tariff of pilotage fees and any other charges shall first be approved by the consuls concerned prior to the same being put in force.

(13) Compulsory pilotage shall not be enforced in any pilotage areas.

(14) As regards salaries, allowances and promotions of pilots, rules shall be formulated in consultation with the consuls concerned.

<sup>(9)</sup> (15) For the security of pilots' positions, rules shall be made in consultation with the consuls concerned.

(16) The Japanese pilots, having extraterritorial rights, shall not to be, in any case, punished in accordance with the Chinese law.

(17) The pilotage authorities shall consult the Consuls concerned in the exercise of such powers as may affect the interests of foreign pilots and other important pilotage

matters.

(18) Japanese pilots or subjects shall not be placed, in all pilotage matters, in a more disadvantageous position than any other foreign or Chinese pilots or subjects.

(19) The share held by the pilots of the Shanghai Pilots' Association, being their private property, shall be paid in cash, when the said Association <sup>(18)</sup> in taken over by the customs.

(付 記)

上海總領事館妥協私案(假譯文)

(一) 暫行水先章程ハ日本人揚子江水先組合及同組合所屬水先人ニ對シ適用セラレサルヘク同組合及該水先人ハ從來同様何等支那側管理機關ノ監督ニ服セサルモノトス

(二) 海關ニ依ル水先監督ノ接收及經營ハ差當リ專ラ上海港水先ニ限ラルヘキモノトス

(三) 現在ノ日本人水先人ハ引續キ其ノ業務ニ從事シ得ルモノトス

(四) 各港水先人ノ數ハ水先管理機關關係國領事ニ協議ノ上決

定スルモノトス

(五) 必要ナル最少限度ノ日本人水先人ハ不斷ニ維持セラルヘク其ノ數ハ日本國領事及支那國港灣水先管理機關ノ合意ニ依リ決定セラルモノトス尤モ上海港ニ於ケル日本人水先人ノ數ハ上海ニ於ケル日本船舶出入ノ現狀カ著シク變化セサル限り五名ヨリ少ナカラサルモノト了解ス

(六) 日本人水先人カ最少限度ノ定數ニ欠クル場合ニ於テハ之カ補充ハ日本人ヲ以テスルモノトス

(七) 日本人水先人カ最少限度ノ定數ヲ超過スル場合ニ於テモ日本人候補者ハ外國人ト同等ノ地歩ニ於テ空席補充ヲ出願シ得ルモノトス此ノ場合新ニ任命セラルベキ水先人ノ國籍ハ從來上海ニ於テ行ハレ來レルト同様各國籍船舶ノ支拂フ水先料金ヲ基礎トシテ決定セラルヘキモノトス

(八) 外國人水先人又ハ見習水先人ノ資格試験及任用ニ關シテハ關係機關ハ豫メ候補者所屬國領事ニ協議スルヲ要スルモノトス

(九) 日本軍艦及船舶ハ何時ナリトモ其ノ水先ノ爲日本人水先人ヲ指定シ得ルモノトス

日本軍艦及船舶ノ水先業務ニ服シタル日本人水先人ハ右

業務ニ服シタルコトヲ理由トシテ如何ナル點ニ於テモ何等不利ナル地位ニ置カレサルヘキモノトス

(十)日本軍艦及船舶ハ何時ナリトモ特定ノ水先人ヲ忌避スル自由アルモノトス

(十一)水先人ノ停職罷免等ノ重要事項ニ付テハ先ノ當該水先人所屬國領事ノ同意ヲ取付クヘキモノトス

(十二)各港ニ於ケル水先ニ關スル地方規則及水先料金並ニ他ノ有ユル手数料ハ實施ニ先シ先ツ關係國領事ノ承認ヲ經ヘキモノトス

(十三)強制水先ハ如何ナル水先區域ニ於テモ實施セラレサルヘキモノトス

(十四)水先人ノ給料手當及昇進ニ付テハ關係國領事ニ協議ノ上之カ規則ヲ制定スルモノトス

(十五)水先人ノ身分保障ニ付テハ關係國領事ニ協議ノ上之カ規則ヲ制定スルモノトス

(十六)日本人水先人ハ治外法權ヲ享有スルヲ以テ如何ナル場合ニ於テモ支那國法令ニ依リ處罰セラルコトナキモノトス

(十七)水先管理機關ハ外國人水先人ノ利益及其他重要ナル水先事項ニ影響ヲ及ホスコトアルヘキ職務ヲ執行ニ當リテハ

行本省案一、ノ(イ)及(ロ)確保上必要ナル最小限度ノ日本人水先人ノ定數トハ實ノ所算出困難ニテ又早キニ及ンテ我方ヨリ明示セサルコト有利ナルヲ以テ差當リハ專ラ支那側ヨリ主義上ノ同意ヲ取付クルコトニ努ムヘキナリ尤モ支

那側ヨリ問詰メラレ止ムヲ得サル場合ニ於テハ右定數算出ノ基礎トシテ前記案一、ノ(イ)迄モ打ち明ケル譯ニ行カサルヘキニ付專ラ(ロ)ノ趣旨ニ則リ我方船舶出入數カ右基準ナルコトヲ説明セラルルコト致方ナカルヘキモ此ノ場合

ニ於テモ算出ノ結果ハ貴方案ノ如ク略現存日本人水先人ト同數トハナラサルヘク之ヲ日英兩國船舶出入隻數若ハ噸數ノ比率ヨリ見ルモ我方ハ現在ヨリモ相當多數ノ割當

ヲ受クヘキ筋合ト存セラル尤モ本項ノ趣旨トスル所ハ既述ノ如ク原則上ノ主張ヲ認メシムルニ在リテ必スシモ今

直チニ日本人水先人ノ數ヲ増加セシメムトスルニ非ス(第六項ニ付テハ斯カル場合ノ補充ハ「必ス」)(又ハ「當然」)若ハ「競争ナクシテ」日本人ヲ以テスルコトヲ明

カニスルコト

(十四)第十四項ニ付テハ本省案ノ如ク給料諸手當<sup>俸給</sup>進「等」トスルコト

關係國領事ニ協議スヘキモノトス

(十八)日本人水先人又ハ日本臣民ハ有ユル水先事項ニ關シ他ノ如何ナル外國若ハ支那水先人又ハ人民ヨリモ不利ナル地位ニ置カルコトナキモノトス

(十九)上海水先協會所屬水先人ノ持分ハ其ノ私有財産ナルヲ以テ協會カ海關ニ接收セラルル場合ニ於テハ現金ヲ以テ支拂ハルヘキモノトス

114 昭和10年5月10日 広田外務大臣より  
在上海石射總領事宛(電報)

水先章程改訂問題に關シ我が方對案を修正の上中国側に正式提示方訓令

本省 5月10日發

第九六號

貴電第一四〇號ニ關シ

貴電第一四一號ノ案文ハ左記修正ノ上特ニ御差支ナキ限り差當リ貴方私案トシテ支那側ニ正式提示セラレ度(關係官廳ト協議スミ)

(一)第五項 it being understood 以下ヲ削除スルコト(杉原携

(二)第八項ノ「見習水先人」ヲ削除シ第二十項トシテ左ノ趣旨ノ一項ヲ設クルコト

「本了解事項(複數)中「水先人」ト稱スルハ各場合ニ應シ「見習水先人」ヲモ含ムモノトス」

(貴方案中第一、三、四、五、八、十四、十五、十六、十七、十八項及見習水先人ノ certificate 取上ケヲモ含マシムレハ第十一項ノ如キハ多クハ見習水先人ニモ適用乃

至ハ適用アラシムルコト必要ナル處第八項ニ限り見習水先人ニ適用アルコトヲ明示スルニ於テハ他ノ項ニ關シテハ適用ナキヤノ誤解ヲ生スル虞アル一方各項ニ付一々

「水先人及見習水先人」トスルコトモ稍無理ニシテ且煩雜ナルヲ以テ前記ノ趣旨ニテ別項ヲ設クルコト可然)

支ニ轉報アリタシ  
北平、南京、天津、青島、漢口、福州、厦門、廣東ニ轉電セリ

115 昭和10年6月12日 在上海石射總領事より  
広田外務大臣宛(電報)

華北における事件發生に鑑み上海停戰協定を

遵守し事端発生を未然に防止するよう上海市  
政府に対し注意喚起について

上海 発  
本省 6月12日後着

第一八六號

從來支那側ニ於テハ動モスレハ上海停戦協定ヲ厄介者視ス  
ル風潮アリ特ニ先般二月中往信機密第六八七號ノ如キ無通  
知通過ノ事例モアリ旁々今次北支問題發生ヲ機會ニ我方ニ  
於テ該協定ヲ重要視シ居ル次第ヲ充分先方ニ知ラシメ置ク  
事機宜ノ措置ト認メ十二日館員ヲ支那側委員俞鴻鈞ノ許ニ  
派シ今次北支問題ノ發生ヲ見タルモ支那側ニ於テ該地方停  
戦協定遵守ノ誠意ヲ缺キ居タルハ重要原因ノ一ナル處我方  
ニ於テハ上海停戦協定ヲモ極メテ重要視シ居ルニ付支那側  
ニ於テモ充分誠意ヲ以テ協定遵守ニ當ラレ問題發生ヲ未然  
ニ防止セラレン事ヲ希望スル旨申入レシメタル處俞ハ御申  
入ノ次第ハ充分諒承セリ早速南京軍政部ニ電報シ各機關ヲ  
シテ一層協定遵守ニ留意スル様手配スヘシト答ヘタル趣ナ  
リ(本件陸戰隊側ト協議済)  
支ヘ轉報シ南京ヘ轉電セリ

(二)日支製品ノ價格協定

(三)製品範圍ノ協定

(四)製品輸出ノ際棉花輸入税ノ一部拂戻

ノ四項ヲ實行スルコト然ルヘシトノ趣旨ニテ孔モ右ニ贊意  
ヲ表セリ元來孔ハ出來相無キモノハ自分ノ手ニテ遣リ遂ケ  
度キ氣持ノ男ナレハ貴官ニ對スル申出モ右氣分ヨリ出テタ  
ルモノナルヘシト内話セリ(唐ノ立場モアリ本電取扱殊ニ  
御注意相成度シ)

支、北平ヘ轉電セリ

支ヨリ上海ヘ轉報アリタシ

編注 電報第六三四号は見当らないが、次の経緯中の六月二

十五日の孔祥熙提案を伝えたものと思われる。

「六月廿五日孔部長ハ須磨總領事ニ對シ自分ヨリ既ニ  
三回借款ヲ申出居ルモ何等手應ヘナカリシ處日支經濟  
合作ノ端緒ヲ作ル見地ヨリ支那紡績業ニ對シ日本側ヨ  
リ三千萬乃至五千萬元ノ借款ヲ得度擔保等ニ付テハ何  
レ専門家ヲシテ研究セシムベキモ右借款成立ノ際ハ日  
支兩國綿業間ノ激烈ナル競争ヲ調整スル爲適當ナル協

116 昭和10年6月26日 在南京須磨總領事より  
広田外務大臣宛(電報)

中国紡績業の救済を目的とした孔祥熙の借款  
要請に関し孔の真意を唐有壬に照会について

南京 6月26日前発  
本省 6月26日前着

第六三五號(極秘)

往電第六三四號ニ關シ

二十五日孔祥熙ノ眞意ニ付内密ニ唐有壬ニ當リ見タル處唐  
ハ實ハ約二箇月前天津紡績業者破産ニ瀕シ次テ上海紡績業  
者モ苦境ニ陥リタル爲是カ救済方法ニ關シ陳公博、秦汾及  
自分ニ於テ研究スルコトナリ五月中旬船津ノ歸滬迄二案  
ヲ取纏ムル筈ナリシカ陳公博病氣等ノ爲拂ラサリシ經緯ア  
リ自分ノ提出セル意見ハ支那綿業救済ノ爲ニハ政府ニ於テ  
補助ヲ與ヘ日本側ト競争セシムルカ又ハ外國殊ニ日本側ヨ  
リ援助ヲ受ケテ協調スルカノ二途アルノミナルモ前者ハ殊  
ニ支那側ニ不利ニモアリ又事實不可能ナレハ後者ヲ採用ス  
ルコト然ルヘク是カ爲

(一)日本綿製品ノ取引市場維持

定ヲ遂グルコト可然ト思惟スル旨ヲ申出デ次デ七月

十九日更ニ右申出ニ對スル我方意見ヲ督促シタルヲ以  
テ須磨總領事ヨリ最近支那ノ關稅引上ニ對シ我國ニ於  
テ反對論不尠ニ鑑ミ日支紡績合作案ノ如キヲ考究スル  
ニ當リ支那側ハ先ヅ互惠稅率協定等ノ如キ方法ヲ以テ  
大局の見地ヨリ兩國貿易關係ノ調整ニ努ムルコト肝要  
ニシテ紡績借款ノ如キモ今少シク専門的具體案ヲ見ル  
ニ非レバ考慮困難ナルベキ旨ヲ說示シタル處孔部長ハ  
關稅問題ハ立法院其他ノ關係モアリ實現容易ナラザル  
ニ付差當リ日支關係ニ付日本側ノ諒解ヲ求メ且兩國貿  
易研究ノ目的ヲ以テ有力ナル支那實業家ヲ赴日セシメ  
度所存ナル旨ヲ申出ヅルニ至レリ」(以上、東亜局第  
一課作成の議會調書「最近支那關係諸問題摘要(第六  
十八議會用下卷)」(昭和十年十二月)より)。

117 昭和10年6月26日 在南京須磨總領事より  
広田外務大臣宛(電報)

水先章程改訂問題に関する我が方対案に孔祥  
熙が難色を示し協議の結果九月末まで改訂章

程の実施延期を孔承諾について

南京 6月26日前発  
本省 6月26日後着

第六三二號

貴大臣發上海宛電報第九六號ニ關シ(水先問題協定案ニ關スル件)

二十五日孔祥熙ヨリ本官ニ對シ石射總領事提出ノ十九條件ニ付テハ目下考慮中ナルモ何シロ英、米、佛トハ餘リニ隔リアル申出ナル爲何トモ決定シ兼ね居ル次第ナルカ此ノ際日本モ支那ノ立場ニ同情シ英米等ト同様ノ措置ニ替ヘラレ間敷キヤト繰返シ述ヘタルニ付我方從來ノ立場ヲ詳述シ押問答ノ結果七月一日ヨリ更ニ三ヶ月間新規則實施延期方承認ヲ取付ケタリ

上海、北平、天津、青島、漢口、廣東、福州、厦門ヘ轉電セリ

上海ヨリ支ヘ轉報アリタシ

118 昭和10年6月27日 在南京須磨總領事より  
広田外務大臣宛(電報)

支ヨリ上海ヘ轉報アリタシ

119 昭和10年6月28日 在南京須磨總領事より  
広田外務大臣宛(電報)

日本製電話材料の購入費用として交通部関連  
債務の返済金による長期信用設定方朱家驊要  
望について

第六四九號

南京 6月28日後発  
本省 6月28日後着

二十八日會見セル朱家驊ハ本官ニ對シ二十四日高木(中日)來訪ノ際日本品購入ニ付話アリタルカ(會談模様ハ高木ヨリ本官ニ報告アリタリ)河北問題ハ一般ニ大ナル衝動ヲ與ヘ自分ノ如ク苟モ道理ノアル處反對ヲ排シ勇氣ヲ振ツテ日本トノ協調提携ニ努力シツツアルモノノ立場ヲ愈困難ナラシメタリ日本側モ今少シク理解アル態度ニ出テラルコト切望ニ堪ヘスト述ヘタル上(本官ヨリハ支那側カ懸案ノ解決ヲ怠リ當然執ルヘキ措置ヲ濫ル爲常ニ紛糾ヲ生スル所以ヲ述ヘ然ルヘク應酬シ置ケリ)交通部ノ材料ハ豫テ自分及

津浦・平漢兩線機關車の満鉄への修理依頼に  
関する鉄道部會計長の内話について

南京 6月27日後発  
本省 6月27日後着

第六四四號

往電第二七七號ニ關シ

橘數日前來寧鐵道部ト交渉ヲ續ケ居タルニ付二十七日館員ヲシテ張競立ヲ往訪セシメ支那各鐵路機關車ノ修理ヲ滿鐵ニ引受ケシムル事ハ支那側ニトリ單ニ經濟上莫大ナル利益アルニ止マラス日支關係ノ現狀ニ顧ミ有意義ナリト思考セラルルヲ以テ右詮議ニハ何等困難無カルヘシト存スト尋ネシメタルニ張ハ先日橘來寧前後黃郛、唐有壬、曾仲鳴ニ於テ相談ノ結果津浦、平漢鐵路ノ機關車ハ北寧名義トシテ修理方然ルヘシト意見ノ一致ヲ見タルカ各鐵路トモ北寧線名義ヲ喜ハス(機關車ヲ返還セラレサル俱アル爲ナル由)一方自分トシテモ各鐵路別トシテ何等差支無カルヘシト思考シ居リ右意見曾仲鳴ニ具申ノ答ナリト語レル趣ナリ(曾ハ目下病氣引籠中)

支、北平、天津、漢口、滿ヘ轉電セリ

120 昭和10年7月9日 在南京須磨總領事より  
広田外務大臣宛(電報)

中国紡績業の救済を目的とした対日借款要請  
に關し我方回答を孔祥熙督促について

南京 7月9日後発  
本省 7月9日後着

第七〇九號(極秘)

往電第六三四號ニ關シ(支那紡績業借款申出一件)

九日孔祥熙ハ本官ニ對シ北支問題モ一段落ヲ告ケタル模様ナレハ政府ニ報告アリ度シト述ヘタルニ付本官ヨリ更ニ具體的ナル案ノ提示ナケレハ日本側ノ的確ナル意見ハ得難カルヘシトテ大体冒頭往電ノ通り應酬ハシ置キタルモ再度ノ申出ニモアリ右電報ス  
支、北平ニ轉電セリ  
支ヨリ上海ヘ轉報アリタシ

121 昭和10年9月(8)日 在南京須磨總領事より  
広田外務大臣宛(電報)

中国訪日經濟視察團派遣や華北經濟委員會設立の計画に関する中国側底意につき觀測報告

南京 本省 9月8日前着

第九三二號

最近唐有壬、張群、孔祥熙等ハ本官ト會見ノ節符節ヲ合シタルカ如ク華北經濟委員會ノ設立、渡日視察團ノ派遣等ハ專ラ親日ヲ方針トスル蔣介石自身ノ指金ニ依ルモノナリトノ印象ヲ與ヘント努ムル傾向アリ華北事件直後ノ北支ノ形

ノ諸問題ニ付テハ相當周密ナル當局ノ考慮ノ織込マレ居ルト同時ニ言論機關等ニ對シテモ拔目無キ指導ノ手延ヒ居ルヤニ認メラル御參考迄  
支、北平、天津、漢口ヘ轉電セリ  
支ヨリ上海ニ轉報アリタシ

122 昭和10年9月16日 広田外務大臣より  
在中国有吉大使、在滿州国南大使、在中國若杉大使館參事官他宛

東洋工業會議開催につき便宜供与方訓令

付記 九月九日

右會議開催準備委員會における桑島(主計)東亞局長挨拶

亞一普通合第一六三九號

昭和拾年九月拾六日

外務大臣 廣田 弘毅

在支特命全權大使 有吉 明殿

在滿洲國特命全權大使 南 次郎殿

在北平大使館參事官 若杉 要殿

勢、北平政整會ノ解散其ノ他一般對日策ノ遂行振等ヨリ推シ其ノ間一抹腑ニ落チ兼ヌルモノアリタル次第ナルカ最近本官上海出張中「モノネー」等ヲ通シ夫レト無ク此ノ間ノ事情ニ付探査ヲ試ミタルニ前記委員會モ視察團モ宋子文ノ立案ニ係リ(往電第八一號參照)委員會ハ之ヲ事實上宋ノ支配スル全國經濟委員會ノ分身トシテ言ハハ來ルヘキ日本ノ北支進出ヲ「チエツク」スヘキ機關トセントシ又視察團ハ「リースロス」來支後ノ活躍ニ便セム爲日本實業家トノ關係ヲ付ケシムルト同時ニ

他方「リ」ニ對シテモ日支實業家トノ間ニハ既ニ相當ノ聯絡アリトノ印象ヲ與ヘントスル底意ニ出テタルモノナルヤノ印象ヲ得タル處現ニ七日ノ新民報カ「渡日經濟視察團ニ希望ス」ナル論說ヲ掲ケ從來日本側ノミニ依リ提唱サレタル日支經濟合作ニ對シ今般支那側ニ於テモ華北經濟委員會、渡日視察團等ヲ組織シ對應ノ氣構ヲ示シ來レルハ確カニ實行ヘノ一步ヲ進メタルモノト云フヲ得ヘシ但シ經濟合作ハ日支互惠平等ノ觀念ニ於テノミ實現シ得ヘキモノナルヲ以テ渡日視察團ハ先ツ日本ノ實業家ニ對シ此ノ根本觀念ヲ印象セシムルコト最肝要ナルヘシト論シ居レルニ見ルモ是等

在南京總領事 須磨 彌吉郎殿  
在上海總領事 石射 猪太郎殿  
在天津總領事 川越 茂殿

東洋工業會議開催ニ付便宜供與方ノ件

社團法人工政會ニ於テ豫テ準備中ノ東洋工業會議ハ愈十月中旬以降支滿各地ニ於テ開催ノ運トナレル趣ヲ以テ今般井上同會議事務總長ヨリ別紙寫<sup>省</sup>ノ通り同會議開催ニ付幹旋方依頼越タルニ付テハ委細右ニテ御承知ノ上關係ノ向ニ對シ同會議側希望達成方々御取計相成度比段申進ス  
本信送付先 支、滿、北平、南京、上海、天津

(付記)

東洋工業會議開催準備委員會ニ於ケル桑島局長ノ挨拶

(欄外記入) 社團法人工政會ハ我國工業ノ進歩發達ヲ圖ル目的ヲ以テ大正六年本邦工業界ノ碩學權威ヲ網羅シ組織セラレタルモノ

テアリマシテ創立以來十數年我國工業ノ助長發達ニ多大ノ貢獻アリタルコトハ既ニ各位ニ於テ御承知ノ所テアリマス。今回同會ハ單ニ本邦ノミナラス進シテ滿洲國、支那國等ニ於ケル工業技術ノ増進ヲ策スルノ見地ヨリ同會ヲシテ東洋

各國間ノ工業ニ關スル學術技術上ノ提携聯絡ノ機關タラシメントスル意圖ノ下ニ東洋工業會議ノ開催ヲ提唱シ今春以來之カ準備ヲ進メ支那ニ對シテハ特ニ同會海口主事ヲ上海、南京、北平、天津等ノ各地ニ派遣セラレタル次第ナル處外務省ト致シテモ右御趣旨ニ双手ヲ舉ケテ贊成致シ出先ニ訓令ノ上在支大使館領事館等ヲシテ側面ヨリ同主事ノ御運動ヲ援助セシメマシタ處支那側ニテモ大ニ之ヲ歡迎シ萬事順調ニ進行シテ愈本秋十月上海、天津、北平、大連、新京、京城ノ各地ニ於テ會議開催ノコトナレルハ誠ニ御同慶ノ至テアリマス。

同會議ニハ工政會理事長井上子爵ヲ初メ各方面ノ權威アル専門學者技術家十數名出席セラレ又各開催地ニ於テモ當該地ノ斯界權威者カ夫々參加セラルル由ニテ右ハ技術學術ヲ通シテ眞ノ意味ニ於ケル民間ノ日滿支學術提携カ行ハルル譯テアリマスカラ實ニ東洋ニ於テハ斯界空前ノ事業ト申スモ過言テハナイノテアリマス。

尙晩近我國工業ノ進歩發達ハ誠ニ目覺シキモノアリテ之ヲ歐米先進國ノ夫ニ比スルモ敢テ遜色ナキ次第ナルニ拘ラス支那ヲ初メ各國ニ於テハ未タ之ヲ認識スルニ至ラス依然歐

(欄外記入)

九月九日午後五時半於丸ノ内日本俱樂部

123 昭和10年9月19日 在南京須磨總領事より  
広田外務大臣宛(電報)

中国訪日經濟視察団の参加者および出発予定  
につき呉鼎昌団長より通報について

南京 9月19日後発  
本省 9月19日後着

第九九三號  
往電第九七一號ニ關シ

十九日吳鼎昌本官ヲ來訪孔祥熙ヨリ實業團渡日ニ關シ詳細申上クル様話シアリタリト前提シ左ノ通り申出テタリ

(一)希望者ハ二十五名ヲ越ヘタルモ御趣旨ニ依リ精選シ十五、六名トナレル處其ノ内確定セルモノ左ノ通

吳鼎昌、陳光甫、徐新六、唐壽民、周作民、錢永銘、榮宗敬、劉鴻生、林康侯、黃江泉、胡筠庵、黃文植。

(二)一行ハ三十日上海ニ勢揃シ十一月一、二日ノ兩日ニ亘リ打合ヲ遂ケ三日以後ノ最近ノ便船ニテ渡航シ先ツ東京ニ赴

米諸國ニ於ケル斯業ノ優秀ナルコトヲ盲信シ居ル有様テアリマスカ今同ノ會議ニ於テ中華民國人等ニ對シ充分本邦工業進歩ノ實情ヲ明瞭ニシ彼等ノ盲信ヲ打破スルト共ニ更ニ彼等ト密接ナル關係ヲ樹立シ工業教育其ノ他工業ニ關シ學術技術上充分ノ聯絡ヲ圖ルハ獨リ邦家ノ興隆發展ニ異常ナル寄與ヲ爲スコトナルノミナラス延テハ東洋各國ノ共存共榮ヲ助成促進スルコトナリ又會議ノ結果工業ニ關スル諸種ノ法制規格等ノ點ニ付日滿支三國間ニ何等カノ統一的标准ヲ見出し得ルカ如キ運トモナラハ今後本邦品ノ入札等ニ關シテモ便宜尠ナカラサルモノアリト思ハレ其ノ意義極メテ重大ナルモノアリト信シマス

敍上ノ次第第二顧リミ政府各方面ニ於テモ同會議ヲ成功セシムル爲夫々援助ヲ惜マス外務省ト致シマシテモ出先機關ト聯絡シ所期ノ成果ヲ舉ケシムル様十分ノ援助ヲ爲シ居ル次第テアリマシテ前記次第第二モ顧ミ同會ノ主旨ノ存スル所ヲ酌ミ取ラレ御列席ノ諸賢ニ於カセラレテモ何卒受分ノ御後援アランコトヲ切望スル次第テアリマス。

キ度キ意嚮ナリ詳細ハ追テ上海大使館ニ申出ツルコトト致スヘシ

(三)一行ハ何レモ各専門ノ日本關係者ト腹藏無キ意見ヲ交換シ歸來後ハ何等カ具體案ヲ纏メ度キ考ナリ  
右ニ對シ本官ヨリ貴電第一四七號等ノ趣旨ヲ更ニ申聞ケ置ケリ

支、北平へ轉電セリ  
支ヨリ上海へ轉報アリタシ

124 昭和10年9月28日 在中国有吉大使より  
広田外務大臣宛(電報)

東洋工業會議開催に對する中国側の消極的態度について

上海 9月28日後発  
本省 9月28日後着

第七四七號

九月十六日附亞一普通合第一六三九號ニ關シ

工業會議事務總長ヨリ直接依頼越シノ次第モアリ先般來支那側關係諸團體トノ間ニ交渉シ居ル處曩ニ海口主事來滬ノ

際各團體關係者ニ於テ講演者ノ出場等ニ付個人的ニ斡旋スルコトニ付テハ承諾ヲ得居タルモ地方委員會組織等ニ付テハ具體的話合出來居ラス又支那側各團體間ノ複雑ナル關係ニ鑑ミ之カ實現ハ困難ナルニ付今回ハ執レカノ學術團體ヲ主催者トシ日本側視察團ノ歡迎及合併講演會ヲ催サシムル建前ニテ早手廻シニ折衝中ナルカ支那側關係者(曩ニ海口ト聯絡シタル莊智煥其ノ他)ノ態度消極的ニシテ右主催者團體ノ選定ハ勿論講演者ノ選擇ニ付テモ斡旋回避ノ態度ヲ執リ居リ一面總領事館ヨリ申入レタル會場トシテ中華學藝社借入方ニ付テモ同社ヨリ猶ホ差支ノ旨ヲ以テ斷リ來ル等(引續キ交渉中)目下ノ所果シテ豫定通り支那側ノ準備出來得ルヤ否ヤ見据着カサル有様ナリ

尙右ニ付一部支那側ヨリ本會議ニ對スル國民政府側(特ニ教育部)ノ態度「デイスカレツジング」ナルコト及最近ノ東京聯合電報ニ今回ノ工業代表團ハ日滿支ノ聯合會議組織カ目的ナル旨報道アリシ爲各團體ニテ急ニ尻込シ始メタリ等ノ聞込アリ内情取調中ニテ一面近ク政府當局ニモ交渉ノ積リニテ(本二十八日唐有壬ニ申入ノ筈)右交渉ノ模様如何ニ依リ前記事事情ハ工政會側ニ傳達方然ルヘシト存スルモ事

支那側ノ遽ニ消極的トナリタル原因トシテ教育部方面ヨリ本計畫ニ反對ノ意味ノ密令ヲ出シ居ルヤノ聞込アリ又外交部當局カ極メテ冷淡ナル態度ヲ表示セルカ爲ナリトノ説モアリ頗ル意外ニ感シ居ル旨告ケタルニ

唐ハ外交部トシテハ至極結構ナル計畫トシテ自分(唐)カ堀内書記官ヨリ聞込ノ際高宗武ヲシテ直ニ關係有力者ニ對シ贊意ヲ傳ヘシメタル位ニテ何等反對ノ意思無キカ教育部側ノ方ハ一應取調ヘ見ルヘシト答ヘタリ依テ本使ハ時日モ切迫シ居ルコトトテ已ム無クハ多少日子ヲ繰下ケシムルコトモ考慮シ得ヘキ處果シテ前顯ノ如キ理由ニ依リ本計畫ノ取止方ヲ東京ニ打電スルコトトモナラハ國民政府ノ兩國親善方針ヲ裏切ルモノトシテ日本學界ハ勿論一般ニ對シ與フル惡影響大ナルヘシトテ唐ノ注意ヲ喚起シタルニ唐ハ全ク同感ナルニ付何トカ豫定通り開催シ得ル様至急手配ヲ試ムルニ付今暫ク右ノ如キ停頓ノ事情ヲ東京ニ報告セサル様取計ハレ度シト答ヘタルニ付本使ヨリ其ノ斡旋ヲ期待スル旨告ケ置ケリ

冒頭往電ノ通り轉電轉報セリ

情御含迄  
北平、南京、天津へ轉電シ上海へ轉報セリ

125 昭和10年9月29日 在中国有吉大使より  
広田外務大臣宛(電報)

東洋工業會議開催に對する教育部などの消極的態度を指摘し日中關係に及ぼす惡影響に關し唐有壬に注意喚起について

上海 9月29日後発  
本省 9月29日後着

第七五四號  
往電第七四七號ニ關シ

二十八日唐有壬來訪ノ節本使ヨリ本計畫ニ關スル今春以來ノ經過特ニ既報ノ如ク去ル六月中唐自身カ堀内書記官ニ對シ贊意ヲ表シタル點等ヲ指摘シタル上日本側團員及講演者(名簿、演題等ヲ手交ス)旅行日程等確定シ居ルコト、右ニ對スル支那側ノ準備促進方館員ヲシテ折衝セシメタルコト然ルニ當初相當盡力シ吳レタル支那側關係者カ意外ニモ消極的ニテ此ノ儘ニテハ停頓ヲ來ス惧アル次第等ヲ説明シ右

126 昭和10年10月4日 在上海石射總領事より  
広田外務大臣宛(電報)

東洋工業會議が成功するよう斡旋方吳鉄城上海市長に申入れについて

上海 10月4日後発  
本省 10月4日後着

第三三三號  
支發閣下宛電報第七五四號ニ關シ

本四日本官吳市長往訪ノ際工政會主催東洋工業會議ノ當地開催ニ關シ最近日本側ノ得タル情報ニ依レハ教育部方面ニ於テハ本會議ニ反對ノ意嚮アリ夫レカ爲從來本會議ニ乘氣ニナリ居タル當地支那側各學校ノ學者專門家等モ最近態度急ニ消極的トナリ又右會場トシテ借入方申込中ノ中華學藝社モ會場提供不可能ナル旨申越シ居ル次第ナルカ若シ右諸言カ事實ニシテ教育部方面ニ於テ斯ル日支間學者ノ學術的會合ニ反對スルカ如キコトアリトセハ日支關係上甚タ面白カラサルニ付地元地方官トシテ貴市長ヨリ南京ニ對シ支那側ハ該會議ニ當然協力援助スヘキモノナルニ付政府ヨリ此ノ旨一般關係方面ニ通達方然ルヘキ旨貴市長ノ意見トシテ



具申セラルルト共ニ一方當地各學校、工業團體等モ奮ツテ本會議ニ參加スル様幹旋アリタク特ニ市政府徐公用局長ハ當地支那人工程師公會ノ會長トナリ居ル關係モアリ率先右會議ニ協力セラルルト共ニ各方面團體ノ幹旋ニ當ラレタキ旨申入レタル處吳市長ハ自分トシテモ至極同感ナリ政府トシテモ斯ル會議ニ反對スル筈無キニ付直ニ自分ヨリ右趣旨南京ニ具申スルト共ニ當地各工業方面學者團體ヲ誘導シ本會議ノ成功ヲ見ル様幹旋スヘク又市政府トシテモ出來得ル限リ一行ノ接待ニ努ムヘシト述ヘ居タリ

支ヘ轉報シ、南京、北平、天津ヘ轉電セリ

127 昭和10年10月10日 在南京須磨總領事より  
広田外務大臣宛(電報)

改訂水先章程の年内実施延期決定に関連して  
将来的実施の見込みを孔祥熙に照会について

南京 10月10日前発  
本省 10月10日後着

第一〇九八號

往電第六三二號ニ關シ(水先問題協定案ニ關スル件)

往電第一九六號ニ關シ

本件協定ノ「テキスト」ハ樞密院ニ對スル關係上絕對ニ公表セサル要アルノミナラス之カ内容ニ付テモ餘リ新聞等ニ書立テラレサルコト本件協定及航空連絡協定ニ對スル樞府側ノ疑惑ヲ避クル爲望マシキ次第ナルヲ以テ差當リ別電第二〇一號當局發表以外ハ掲載禁止方取計タリ

就テハ貴方ヨリ支那側ニ對シ同様措置方申入ラレ度(在支邦字新聞ニ對スル取締ニ付テハ別途訓令ス)

尙當方ノ發表(遞信省ヨリナス)ハ調印ト同時ニ行フ筈支ニ轉電セリ

(別電)

本省 10月22日後5時発

第二〇一號(至急)

日支間無線電話連絡開始明年二月十五日ヨリ實施  
日支間ノ無線電話連絡ハ客年來遞信省ト交通部トノ間ニ話合中テアツタカ今回其ノ協議纏リ明年二月十五日ヨリ東京上海間ニ無線電話連絡ヲ行ヒ之ニ依リ日支間ノ電話通話ヲ取扱フコトナツタ。東京上海間ノ料金ハ三分間一通話ニ

九日會見ノ際孔祥熙ヨリ水先新章程實施期ハ六月末ヨリ半年間延期スルコトナリ居タルニ付十二月迄ニハ何分ノ解決ヲ遂ケ度シト言ヘルニ付本官ヨリ上海ニ於ケル海關トノ交渉ハ打切ラレタルヤノ聞込アルモ一向何レノ方面ヨリモ眞面目ナル表示ナク結局新章程ハ先ツ實施ヲ見ルコトナカルヘシト思考シ居タリト言ヘルニ孔ハ「メーズ」ヨリ未タ詳細ノ報告ニ接シ居ラスト呆ケ居タリ

支、北平、天津、青島、漢口、廣東、福州、廈門ヘ轉電セリ

支ヨリ上海ヘ轉報アリタシ

128 昭和10年10月22日 広田外務大臣より  
在南京須磨總領事宛(電報)

日中無線電話連絡協定の公表振りにつき訓令

別電 十月二十二日発広田外務大臣より在南京須磨總領事宛第二〇一号  
右日本側發表文

本省 10月22日後4時発

第二〇〇號(至急)

付十五圓テアル。

日支兩國カ肉聲ヲ以テ相語ラヒ得ルコトナツタコトハ兩國ノ親善關係ニ多大ノ貢獻ヲ爲スモノト信セラレテ居ル。  
(遞信省發表)

129 昭和10年10月22日 在南京須磨總領事より  
広田外務大臣宛(電報)

日中無線電話連絡協定調印について

南京 10月22日後発  
本省 10月22日後着

第一一七九號(大至急)

往電第一一七八號ニ關シ(日支無線電話協定ニ關スル件)  
豫定通り午後四時調印ヲ了セリ  
支ヘ轉電セリ

130 昭和10年10月28日 在上海石射總領事より  
広田外務大臣宛(電報)

東洋工業會議は中国側の協力もあり盛会のうち  
に終了について

## 第三五四號

支發閣下宛電報第八四九號ニ關シ

工政會一行ハ廿五日當地着、廿六日正午中華學藝社ニ於テ吳市長主催ノ招宴後引續支那側主催第一回講演會ヲ開催セリカ支那側出席者ハ各大學教授、工業專門家、地方有力者、市政府職員、外交部及實業部代表者等合計約七十名アリ（日本側ハ一行共約四十名、日本側出席者ハ場所食事等ノ都合上先方ノ希望ニ依リ特ニ人數ヲ少クセリ）支那側司會者暨南大學校長兼中華學藝社理事長何炳松ノ開會ノ辭ニ次ギ支那側ヨリ汪外交部長（亞細亞司長高宗武代讀）及陳實業部長（劉維熾次長代讀）ノ祝辭アリ日本側ヨリ外務大臣祝辭（大使代讀）商工大臣祝辭（本官代讀）ヲ披露シタル後講演ニ移リタルカ支那側講演者黎交通大學々長ハ自動車事故ノ爲負傷シ急ニ出席不可能トナリタル爲日本側圓谷博士ノ「日本ノ工業教育ノ現狀」ナル講演ノミニテ同日ノ講演會ヲ終了シ翌廿七日ハ工政會代表團ノ名義ヲ以テ同シク中華學藝社ニテ前日同様日支雙方關係者ヲ午餐ニ招待シ午後引續キ

上海 10月28日後発  
本省 10月28日後着

心シ居ル模様ニテ最近統稅局科長楊某、在華紡績同業會ヲ來訪シ日本側紡績ノ統稅前拂方交渉シ來リタルカ（現在統稅支拂ハ後拂ノ方法ニテ毎月廿五日ニ其ノ月分ヲ支拂フコトトナリ居リ當地ニ於ケル日本紡績統稅年額ハ大約六百萬元ナルカ當時楊ハ政府ハ三千萬元調達ノ必要ニ迫ラレ居ル由語リタル趣ナリ）同業會側ニテハ資金難ヲ理由ニ之ヲ拒絶シ置キタル由ナリ一方陸軍武官室ノ得タル情報ニ依レハ右ト前後シ英米煙草會社ニ對シテモ煙稅ノ前借交渉ヲ持掛ケタルカ（前記楊モ之カ交渉中ナル旨ヲ語リ居タル由）斷ラレ其ノ結果右統稅ヲ擔保ニ五百萬元位ノ短期借款ヲ銀行側ニ交渉シ居レリトノコトナリ確メ中ナルモ不取敢

天津、北平、濟南、青島、南京、漢口、福州、廣東へ轉電シ上海、上海商務官へ轉報セリ

132

昭和10年11月23日

在中国有吉大使より  
広田外務大臣宛（電報）

## 中日貿易協會設立に関する中国側動向について

上海 11月23日後発  
本省 11月23日夜着

第二日目講演會ヲ開催シ支那側同濟大學教授唐英ノ「上海ノ工業」日本側岩本學士ノ「日本航空ノ現狀」ナル講演アリ會後一行携帶ノ映畫撮影ヲ爲シタルカ支那側出席者ハ略前日同様ノ顔觸ニテ約六十名（日本側四十名）ニ達セリ

斯ノ如ク當地講演會ノ開催ニ付テハ閣下宛支發累次ノ電報ノ通り種々困難ナル問題アリタルニモ拘ラス其ノ後外交部吳市長等支那側官憲ノ努力ニ依リ兎モ角表面案外盛大裡ニ終了シ一行モ頗ル満足シ居タル模様ナリ

委細郵報スヘキモ不取敢

支ニ轉報シ、南京、濟南、天津、青島、北平へ轉電セリ

131 昭和10年10月29日

在中国有吉大使より  
広田外務大臣宛（電報）

## 中国政府が在中国本邦紡績業者に対し統稅の

## 前払いを要請について

上海 発

本省 10月29日後着

## 第八七一號

國民政府ハ今回蔣介石ノ來寧ニ依リ頻リニ軍費ノ調達ニ腐

## 第九八九號

周文彬（經濟視察團秘書）ノ二十二日館員ヘノ内話左ノ通

一、吳鼎昌ヨリ蔣介石ニ對シ視察報告旁時節柄ニモ顧ミ中日貿易協會設立ノ可否ニ付蔣ノ意嚮ヲ尋ネタルニ蔣ハ元來國策トシテハ當然日支提携セサルヘカラス現ニ主トシテ北支ヨリ歸來セル黨員、軍人、政治家中ニハ日本軍人ノ遣方ニ反感ヲ有シ居ル者アルモ右ハ一部ニ過キス目下時局ノ緊張ノ如キモ言ハハ提携ヘノ一過程ニ過キス本協會ノ設立ハ是等ニ關係無ク實現スヘキ旨述ヘ吳ヨリ黨部方面其ノ他直接本協會ト關係ヲ生スヘキ實業部、財政部方面ノ思惑ニ付不安ヲ表示シタルニ蔣ハ國內ノコトハ萬事自分（蔣）ニテ引受クルニ依リ心配ノ要無キ旨激勵シタル由ニテ又病床ノ汪ニモ報告シタルニ汪モ非常ニ喜ビ居タル趣ナリ

二、右様事情ニテ先ツ々々國內の反對モナキ見透シ着キタルヲ以テ二十一日團員會合シ協會ノ組織ニ付具体的話ヲ進メタル結果今次ノ視察ニ參加セル者ハ全部其ノ儘會員トナリ右會員間ニテ各界知名實業家中ヨリ從來日本側トノ間ニ問題ヲ起シタルモノ（例ヘハ三友實業社ノ如シ）又ハ

平素ヨリ對日反感ヲ有スルモノヲ除キ會員ニ推薦スルコトトシ兩三日中ニ承諾取付ノ書狀發送ノ手筈トナリ居レリ

三、協會長ノ人選ニ付テハ吳鼎昌最適任者ナルモ同人之ヲ固辭シ居リ張公權亦多數各國トノ經濟協會長ヲ勤メ居リ就任便ナラス結局錢新之邊ニ落着クコトトナル模様ナリ追テ右吳ノ會長辭退ニ關聯シ當地時事特派員赤星ハ右ハ最近支那側ノ對日空氣惡化ニ原因スルモノナル旨特電ヲ發シタル趣ナリシニ付爲念館員ヨリ周二對シ右吳ノ辭退ハ時局ヲ顧慮セル爲ナラスヤト反問セルニ絶對其ノコトナク吳ハ政界ニ野心ヲ有シ居リ會長就任ヲ不便ト考ヘ居ルカ爲ナリト答ヘ居タル趣ナリ

北平、天津、南京、廣東へ轉電セリ

133

昭和10年11月23日

在上海石射総領事より  
広田外務大臣宛(電報)

### 上海における邦人の銀密輸問題に關し対応振り請訓

續ケハ一息付ケルトホクホクノ模様ナリ

二、右銀密輸取締ニ付テハ當方ニ於テハ冒頭電報ノ趣旨ニ依リ處置シ居レルカ何分警察官手不足ノ爲到底徹底ヲ期スルヲ得ス税關吏ニ依リ摘發セラレタル者等特ニ目立チタル者ノミヲ船ヨリ本署ニ連行シ取調ノ上戒告ヲ加ヘ札ニ替ヘサセルカ又ハ爲替ヲ組マセ現銀其ノ物ノ輸出ハ之ヲ思ヒ止マラセ居リ而シテ一方當館警察官ヲシテ税關吏カ船内ニテ直接ニ邦人被疑者ノ身體ヲ取調ヘ又ハ容疑荷物ヲ取押ヘル等ノコトハサセ居ラサル爲實際上邦人ノ手ニ依リ銀密輸ハ盛行ハレ前記ノ如キ景況ヲ呈シ居ル次第ナリ

三、税關側ノ態度ヲ見ルニ

(イ)冒頭往電末項記載ノ我方抗議ニ於テ日本人ノ身體ニ對スル強制取調及警察官ノ職務執行妨害ヲ攻撃シテ遣リタルニ對シ税關側ヨリハ當時現場ニアリタル税關吏ト警察官ノ間ニ誤解アリタル様子ト種々辯解シ來レルカ其ノ後ハ税關吏ハ邦人身體検査ヲ實際上遣リ居ラス(ロ)然レトモ客月十四日ノ上海丸及廿六日ノ照國丸ヨリ當館警察署ニ連行シタル邦人銀密輸者ノ攜帶銀ニ付テハ

第三八八號

往電第三四一號及貴電第二〇一號ニ關シ(上海ニ於ケル邦人ノ銀密輸出問題)

「其ノ後邦人ノ銀密輸激増シ聯絡船ハ每航海是等銀密輸者ノ爲各等トモ滿員ノ狀況ニテ乘客ノ八、九割位ハ銀密輸者ニシテ一人當リ携帶額ハ大體最低額二、三百弗、最高七、八千弗内外ニシテ每船平均約二十萬弗位ノ銀カ本邦ニ持出サレツアル見込ナリ銀密輸ニ從事スルモノハ當地在住ノモノノミナラス内地ヨリ出張シ來レルモノモ多數アリテ銀携行ノ方法ハ身體ニ捲着ケ或ハ特ニ銀持出ノ爲作製セラレタル防彈「チヨツキ」ノ如キモノニ忍ハセタルモノ最多ク或ハ手荷物トシテ「スートケース」、行李、風呂敷包等ニ依リ携帶シ居ル様子ナリ而シテ是等銀密輸者ハ大體銀百弗ヲ金百二十圓位ニテ買入レ長崎ニテ金百五十圓乃至百六十圓位ニテ賣却スラシク百弗ニ付三、四十圓ノ利益ヲ上ケ居ル由ニテ不況ニ喘キ居タル當地在留小商人モ此ノ不時ノ金儲ニ有付キ之カ今年一杯位

上海 11月23日後発  
本省 11月23日夜着

右現銀ハ銀ノ外國向輸送制限ニ關スル政府ノ命令ニ違反シテ密輸出サルヘキモノナルニ付之ヲ税關側ニ引渡アリ度キ旨申越シタルカ右ニ對シテハ戒告ヲ加ヘタル上持主ニ返シ居レリト簡單ニ回答シ置キタル處税關側ヨリハ夫レ以上ハ追求シ來ラス

(ハ)其ノ後税關側ヨリ本月七日ノ上海丸ニ於テ税關吏カ銀弗入りノ荷物六個ヲ發見シ之ヲ税關ニ持運ハントセル處當館警察官ハ領事館ニ持行キテ取調フヘシト主張シ其ノ内一個ハ善意ノ日本人ノモノニシテ中味ハ單ニ衣類ノミナル故ヲ以テ税關吏カ検査ヲ要求セルニ拘ラス「リリリース」シ他ノ五個ハ領事館ニ持行キ取調ノ結果現銀發見セラレタルカ税關ニテハ右警察官ノ措置ハ其ノ理由ヲ解スルニ苦シム次第ニシテ今後ハ税關吏ノ正當ナル職務執行ニ警察官カ干渉セサル様セラレ度キ旨申越スト共ニ前記(ロ)ノ場合ト同様ノ理由ニ依リ現銀引渡方要求越セリ

(ニ)尙税關側ヨリ本月七日ノ上海丸ニ於テ二名ノ日本人ヲ當館警察官カ捕ヘ税關吏ニ通報シタル後領事館ニ連行シ取調ノ結果何レモ身體ニ現銀ヲ着ケ居ルコト判明セ

第三八九號  
往電第三八八號ニ關シ

上海 11月23日後發  
本省 11月23日夜着

上海における邦人の銀密輸問題に關し身体検査や密輸銀の沒收など税関側の取締活動を容認すれば防遏の效果ある旨意見具申

134 昭和10年11月23日 在上海石射總領事より  
広田外務大臣宛(電報)

支へ轉報シ北平、天津、青島、南京、福州、厦門へ轉電セリ

トヲ事實上認め居ルモ右ハ「條約上特別ノ規定アル場合ヲ除キ」日支間ノ關係ニ於テハ嚴密ナル條約論ヨリスレハ我方カ法律上ノ義務トシテ認めサルヘカラサルモノニアラスシテ單ニ好意的ニ默認又ハ容認シ居ルモノニ過キスト解シ得ヘキヤニ思考セラルル處前記三ノ(イ)及(ニ)ニ對スル回答ノ都合モアリ右諸點ニ關スル本省ノ御解釋當方心得迄ニ何分ノ儀御回答ヲ請フ

四、<sup>(4)</sup>本件銀密輸ニ對スル當方ノ取締振ハ前記ノ通ニシテ實際ノ結果ヨリ見レハ禁遏トモ獎勵又ハ放任トモ付カス頗ル不徹底ニナリ居ル次第ニシテ之カ取締ハ何トカ考案スル必要アル處差當り問題トナルハ本件銀密輸ニ對スル法律關係ニシテ税関側ニテハ身體ニ着ケ居ル者ノ検査ハ兎モ角荷物トシテ行李等ニ入レ居ル者ハ船内ニ於テ税関吏カ検査押收シ且ツ密輸銀ハ總テ税関ニ於テ沒收シ得ルトノ見解ヲ採リ居ルモノノ如クナル處條約論ヨリスレハ

謝スト附言シ來レリ

ルカ右ニ對シテハ警察官ノ協力援助ヲ感謝スル旨及右警察官ニ *seize fees* ヲ提供シ度キ旨申越スト共ニ(四)ノ場合ト同様ノ理由ニ依リ現銀引渡方要求越セリ(ハ)及(ニ)ニ對シテハ未タ回答ヲ發シ居ラス)

(ホ)過般當地税関長新任挨拶ノ爲本官來訪ノ際本件密輸ニ言及シ日本側ノ取締協力ヲ希望セルニ付當方ニ於テモ成ルヘク協力シ警察官ヲシテ取締ニ當ラシメ居ルニ付税関吏カ勝手ニ日本人ノ身體検査等遣ラヌ様ニ注意セラレ度シト述ヘ置キタル處(イ)ノ回答文ノ中ニ右會見ニ於テ本官ノ述ヘタル日本側ノ協力ヲ再ヒ書面ヲ以テ感謝スト附言シ來レリ

四、<sup>(4)</sup>本件銀密輸ニ對スル當方ノ取締振ハ前記ノ通ニシテ實際ノ結果ヨリ見レハ禁遏トモ獎勵又ハ放任トモ付カス頗ル不徹底ニナリ居ル次第ニシテ之カ取締ハ何トカ考案スル必要アル處差當り問題トナルハ本件銀密輸ニ對スル法律關係ニシテ税関側ニテハ身體ニ着ケ居ル者ノ検査ハ兎モ角荷物トシテ行李等ニ入レ居ル者ハ船内ニ於テ税関吏カ検査押收シ且ツ密輸銀ハ總テ税関ニ於テ沒收シ得ルトノ見解ヲ採リ居ルモノノ如クナル處條約論ヨリスレハ

(イ)日支通商條約第五條後段ノ適用アル場合ハ格別今日迄行ハレ居ルカ如キ方法ヲ以テスル邦人ノ銀密輸ノ場合

ニハ(日支間條約ニハ英支天津條約第四十八條ノ如キ規定ナキヲ以テ)支那側ニ於テ當然ニ沒收シ得ヘキモノニアラス況ンヤ本件銀密輸罰則(往電第三六號)ハ未タ我方ノ承認セルモノニアラサルヲ以テ密輸者自身ニ對スル身體的拘束ハ勿論罰金及沒收共ニ本邦人ノ關スル限り課セラルル謂ナク又

(ロ)<sup>(5)</sup>船内ニ於ケル税関吏ノ検査押收ノ如キ職務執行ハ一般ニ治外法權ノ關係上特ニ我方ノ承認ヲ得サル限り當然行ヒ得ルモノニアラスシテ(英支天津條約第三十六條ノ船舶看守ノ爲ノ乗船權ノ如キモノモ明治四年日清通商章程第四款ニハ規定アリタレトモ現行日支間條約ニハ存在セス)

(ハ)日支通商條約第十八條ハ本件銀密輸ノ如キ場合ニ税関側ノ沒收及船舶ニ於ケル検査、押收等ノ職務執行ヲ合法化又ハ正當化スル根據規定ト解スヘキモノニアラス(ニ)尤モ從來一般密輸品ニ付テハ實際上沒收ヲ認め居リ又密輸取締ノ爲税関吏カ船内ニ於テ検査押收等ヲ爲スコ

一、邦人ノ銀密輸ニ付テハ之カ或ハ日本ノ爲利益ナリトカ或ハ疲弊セル在留民ヲ潤スモノナリトカ或ハ邦人銀行ノ保有銀ヲ之ニ依リ處分スヘシトカ或ハ之ニ依リ新幣制ノ確立ヲ阻止スヘシトカ云フカ如キ考モアル様ナレトモ何ト云ツテモ斯ノ如キ密輸ハ正業ニアラスシテ着實ナル業務心ヲ損ヒ却テ在留民ノ爲ニナラス又條約論上ノ理窟ハ兎毛角支那ノ法令ヲ犯シテ行ハルル密輸ヲ結果ニ於テ我方カ庇護スルカ如キコトニナル様デハ支那側ニ對スル關係ニ於テ我方ノ態度ハ公正ヲ疑ハレ旁大局上ヨリスレハ今少シク取締ノ徹底ヲ講スルノ要アリト存セラルルモ茲ニ問題ハ前記邦人銀行ノ保有銀ヲ密輸ニ依リ處分スヘシトノ議ニシテ右ハ政治的ノ問題ヲモ包含スル特殊ノ案件ナル丈ケニ特別ノ考量ヲ加フルノ必要アリテ右ノ如キ事情ノ結果實ハ當方ニ於テハ今後ノ取締方針ニ付迷ヒ居ル次第ナリ

二、從來銀密輸カ事實上殆ント無制限ニ行ハレ居ルハ當方ニ於テ税関側ノ手ニ依ル邦人銀密輸被疑者ノ身體検査、銀密輸容疑荷物ノ検査及押收並ニ密輸銀ノ沒收ヲ認メス之ヲ阻止スルノ結果トナル態度ニ出テ居ル爲ナルヲ以テ若

136

昭和10年11月27日

広田外務大臣より  
在上海石射総領事宛(電報)

上海における邦人の銀密輸問題に關し条約論  
に基づく我が方見解回訓

シ我方ニ於テ船内等ニ於ケル取締ノ實行ヲ稅關側ノ手ニ  
一任スルカ又ハ直ニ之ニ協力シ事實上稅關側ノ検査、押  
收及沒收ヲ認ムルコトトセハ密輸防遏ノ實效ヲ舉クルコ  
ト大ナリト存セラル

三、冒頭往電末項ノ如キ條約上ノ純理論ハ兎モ角從來實際上  
一般密輸品ニ付テハ稅關側ノ船内ニ於ケル検査、押收並  
ニ沒收ヲ認メ居リ右ハ殆ト確立セル慣行ナルカ本件銀密  
輸ノ場合ニ限り我方ニ於テ右ト異ル方途ヲ執ラントスレ  
ハ支那側ヨリ説明ヲ求メラレタル場合返答ニ窮スル次第  
ナリ

四、邦人銀行ノ銀處分問題ニ付テハ大使館側ヨリ何分ノ稟申  
アル筈ニ付前記諸點ト併セテ御考量ノ上今後ノ取締方針  
ニ關シ何分ノ儀御回示ヲ請フ

支へ轉報シ北平、天津、青島、南京、福州、厦門へ轉電セ  
リ

~~~~~

135

昭和10年11月27日

広田外務大臣より
在上海石射総領事宛(電報)

上海における邦人の銀密輸問題に關し当面の

北平、天津、青島、南京、福州、厦門ニ轉電セリ

~~~~~

實際的対応振り回訓

本省 11月27日後3時20分発

第二二四號

貴電第三八九號ニ關シ

一、本邦人ノ銀密輸出問題ニ付テハ支那側ニ對スル政治的考  
慮モ去ルコト乍ラ居留民取締ノ關係ヨリモ之ヲ適當「チ  
エック」スルコト可然シト認メラルル次第ナルモ(甲)内地  
及本邦外地ニ流入スルモノニ對スル取締(在青島總領事  
發本大臣宛電報第二二〇號參照)カ甚タ困難ナル一方(乙)  
現地ニ於ケル取締ニ付テモ(イ)本邦側ニ於テ實效的ニ行ハ  
ントセハ館令等ニ依ル罰則ノ制定及警察人員増加等ヲ必  
要トスヘク之亦實現容易ナラサル處(ロ)冒頭貴電見ノ如  
ク支那側取締ニ一任シ乃至ハ事實上其ノ検査、押收及沒  
收ヲ一般的ニ認ムルコトモ諸般ノ關係上面白カラス

二、仍テ差當リ實行可能ナル方法トシテハ本邦側取締ニ付テ  
ハ館令等ノ公布ニ代フルニ諭告ヲ以テシ之ヲ遵守セサル  
本邦人ニ對シテハ必スシモ通常ノ保護ヲ與ヘサルヘキ根  
據ヲ作り置ク一方支那側ノ取締ニ付テモ必スシモ條約論  
ニ拘泥スルコトナク(但シ條約上ノ我方ノ立場ハ之ヲ放

第二二三號

本省 11月27日後4時40分発

貴電第三八八號末尾ニ關シ

一、稅關側ノ銀密輸出取締ニ關スル條約論トシテ當方ノ見ル  
所左ノ通

支那側ノ本件取締ハ稅收保全ヲ目的トスルモノニ非サル  
ヘキヲ以テ日支通商條約第十八條ニ據リ「其ノ必要ト認  
ムル措置」トシテ其ノ一方的ニ制定セル銀密輸罰則ヲ當  
然ニ本邦人ニ適用シ身体ニ對スル拘束、罰金ノ徵收、密  
輸品ノ沒收等ヲ爲スコト能ハサルハ勿論ナリ(假リニ支  
那側ノ本件取締カ前記條約ノ規定ニ該當シ我方カ概括的  
ニ之ヲ容認セルモノト解スルニ於テモ猶ホ治外法權ノ結  
果トシテ支那側處罰ノ方法限度ニ付テハ制限アルコト往  
電第一一一號ノ通)

二、從テ冒頭貴電、貴見ノ各點ニ付逐一當方ノ見解ヲ回示ス  
ル要ナカルヘキヤニ認メラルル處右貴見(ロ)及(ニ)即チ嚴密  
ナル條約論トシテハ一般密輸ニ付テモ稅關側ハ權利トシ  
テ船舶間ノ検査、押收及處分ヲ爲シ得ルモノニ非ストノ  
論ハ相當疑問モアリ旁本件銀密輸取締ニ關スル支那側ト

ノ應酬ニ當リテハ出來得ル限り専ラ前記、ノ論據ニ依ラレ度

支ニ轉報アリ度

北平、天津、青島、南京、福州、厦門ニ轉電セリ

137 昭和10年12月9日 在中国有吉大使より  
広田外務大臣宛(電報)

中日貿易協会の理事内定について

上海 12月9日夜発  
本省 12月9日夜着

第一〇八一號

往電第九八九號ニ關シ(中日貿易協會設立ニ關スル件)

其ノ後支那側發起人ニ於テハ船津等ト話合ノ上時局如何ニ拘ラス本件協會ヲ成立セシムル方針ニテ計畫ヲ進メ居ル處五日吳鼎昌ハ船津ニ對シ理事二十五名ハ視察團員十五名ノ外張公權、虞洽卿、李銘、杜月笙、陳介、吳在章、米里、吉田、浦邊、船津トシ其ノ内周作民、張公權、錢永銘、俞佐庭、陳光甫、吳鼎昌及船津ヲ常任理事ニ又周作民ヲ會長、張公權ヲ副會長トスルコトニ協議擬定セル旨及天津、漢口

往電第四〇四號及本月二日附往信機密第一五二二號ニ關シ當地銀密輸ハ其ノ後當館警察ノ嚴重ナル取締ニ依リ漸次下火トナリ殊ニ昨今ハ銀價下落ニ依リ殆ト商賣ニナラス一時左シモ盛ナリシ當地銀密輸モ今ヤ殆ト終熄ノ状態トナリタリ尙前記往信ヲ以テ稅關吏ノ摘發セルモノハ警察官立會ノ上稅關側ニ引渡スコトトセル旨申進シ置キタルモ實際ニハ右ノ如キ事例無ク殆ト全部當方限リニテ札ニ換ヘサスルカ爲替ヲ組マセ處理シ居レリ但シ外國船ニ依リタルモノニシ

等ニ於テ既ニ發起人タルコトヲ承諾セルモノ八十餘名ニ達シタルヲ以テ十五日頃ニハ正式發表ノ積リナリシモ北支政局ノ爲暫ク秘密ノ儘トシ置ク外無キ旨申出テタル趣ナリ尙吳鼎昌カ會長ヲ辭退セルハ大公報等新聞業ニ關係シ居ルコト及同人カ北方出身ニシテ會長ニハ全體的ナル人物ヲ以テスルヲ可トスト云フ理由ナルカ政界ニ希望ヲ有スル爲モアルラシク(九日陳介ノ船津ニ對スル内話ニ依レハ吳ハ蔣介石ヨリ實業部長就任ヲ勸メラレ略内定セル由)又張公權ハ國際貿易協會會長タル關係上是亦本件會長ヲ固辭シタル次第ナル趣ナリ

北平、天津、南京、廣東へ轉電シ上海へ轉報セリ

138 昭和10年12月24日 在上海石射總領事より  
広田外務大臣宛(電報)

上海における邦人の銀密輸は我が方の實際的  
対応により漸次下火の傾向について

上海 12月24日後発  
本省 12月24日夜着

第四四〇號

テ稅關側ニ沒收セラレタルモノ若干アリタルモ右ニ對シテ當方ハ知ラス體ニテ抗議等提出セス又其ノ間モ二、三回當方ニテ押ヘタル銀ニ付稅關ヨリ交付方要求シ來レルモ札ニ換ヘサセタル旨簡單ニ答ヘ置キタルカ夫レ以上先方ヨリ追求シ來ラス

支ニ轉報シ天津、青島、漢口、南京、福州、厦門、芝罘へ轉電セリ